

2018 年度

岩手県高次脳機能障がい支援普及事業及び  
高次脳機能障がい地域支援体制整備事業報告書

公益財団法人

いわてリハビリテーションセンター

# 目次

## ご挨拶

I	事業概要	1
II	事業実施報告	4
1	事業報告書	4
2	相談支援状況	8
3	精算書	14
4	会議・研修会実績	16
	i) 圏域コーディネーター支援研修会	
	ii) 特別な配慮を必要とする児童・生徒を支援していくための研修会	
	iii) 医師・コメディカル対象研修	
	iv) 行動に障害のある方を理解・支援していくための研修会	
5	当事者交流イベント	43
6	メールニュース	48
7	日々ノート新聞記事	62
III	岩手県内の支援拠点機関一覧	63

## ご挨拶

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター

理事長・センター長 大井 清文

平成13年より厚生労働省は、行政的に定義された高次脳機能障害についてモデル事業を展開し、その実態や診断および支援プログラムについて検討を行って来ました。岩手県においては、当センターの高橋明名誉理事長が中心となり検討を開始し、平成19年に岩手県が当センターを高次脳機能障害支援拠点機関として指定し、岩手県における高次脳機能障害者の疫学、診断・治療から社会参加に渡る広範囲な調査研究および支援活動を行って参りました。現在当センターには、医師、看護師およびリハ職以外に社会福祉士2名、臨床心理士2名の高次脳機能障害支援コーディネーターが配置され、当事者・家族および支援者の方々からの相談に対応している他、研修会の開催、出張講義などを通じて、高次脳機能障害支援の普及活動を行っております。しかしながらこの活動は、多くの方々のご協力によりなされてきたものであり、特に岩手県高次脳機能障害支援普及事業連絡協議会（会長：小川 彰 岩手医科大学理事長）の皆様ならびに岩手県（障がい保健福祉課）のご支援には厚く御礼を申し上げます。

さて、高次脳機能障害者への支援は、日常生活の自立から就学・就労等を通じての社会参加まで、長期的な関わりが必要であり、当事者にとって身近な地域の社会資源の活用は不可欠であります。しかしながら、県内の社会資源は地域差があり、その地域に合わせた支援体制を確立していくことが課題としてありました。そこで岩手県のご理解のもと、平成27年度より高次脳機能障害地域支援体制整備事業を開始し、その一環として障がい保健福祉圏域ごとに地域支援拠点機関を設置する活動を開始いたしました。その結果、平成30年度には県内9圏域中8圏域に拠点が整備され、それに伴い地域の関係機関の支援の輪も広がり、「地域で支える」体制が徐々に確立されてきております。そして、このような活動は毎年報告させていただいておりましたが、平成30年度より、冊子として本事業を報告させていただくこととなりました。お忙しい中とは存じますが、是非ご一読いただければ幸いと存じます。

最後に、今後とも皆様のご協力・ご指導を賜りながら、高次脳機能障害者およびご家族の地域での暮らしを支えていけるよう、より一層尽力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

# I 事業概要

## 高次脳機能障がいへの支援の取組みについて

### I 本県における現状と課題

#### <障がいの概要>

脳の器質的病変の原因となる交通事故による受傷や脳卒中等の疾病により発生する、記憶障がい、注意障がい、遂行機能障がい及び社会的行動障がい。

#### <対象者数>

##### 高次脳機能障がい者数（推計）

県全体 2,751人（地区内訳 盛岡 1,028人、県南 1,054人、沿岸 421人、県北 248人）

※ 国立障害者リハビリテーションセンターがモデル事業実施時に調査した全国の高次脳機能障がい者数の人口比率を岩手の人口比率に換算して算定したものである。

全国の人口	:	全国の高次脳機能障がい者数	=	県人口 * (A)	:	県内の高次脳機能障がい者数 (B)
128,000,000人	:	274,000人	=	1,284,732人	:	2,751人

\* 県人口は、岩手県毎月人口（平成26年9月1日現在）

\*（参考）比率：0.00214【B/A】

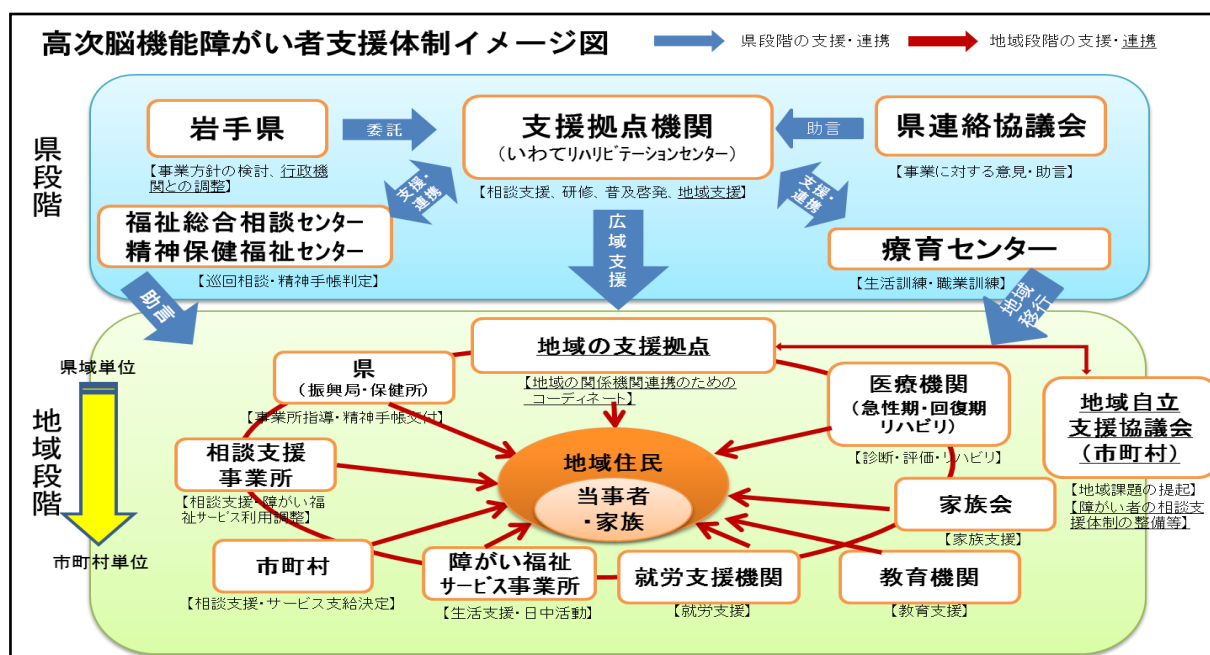
高次脳機能障がい者は、日常生活や社会生活に制約があると診断されれば「器質性精神障害」として、精神障害者保健福祉手帳の申請対象となり、また発症（受傷）が18歳未満で、知的障害と判定された場合に、療育手帳の申請対象となっている。

県内の関係機関で支援を行った高次脳機能障がい者の数が増加している一方、まだ支援実績がない関係機関もあり、関係者の高次脳機能障がいに対する知識や経験が不足している。

また、県民の高次脳機能障がいに関する理解が不足している状況にある。

### II 課題への対応（主な取組）

県では、相談支援ネットワークの構築や人材育成、活動交流の場の確保など、高次脳機能障がい者が、孤立せず安心して暮らせる地域づくりに向けて取組を進めている。



## 1 県の支援拠点機関の設置（いわてリハビリテーションセンター） H19～

相談支援コーディネーターを配置し、専門的な相談支援、関係機関との連携、調整を行う。  
また、普及啓発活動の他、支援者を対象とした研修の実施や地域支援拠点への訪問等、地域での高次脳機能障がい者への取組を支援する。

### 【主な取組内容】

#### (1) 高次脳機能障がい者支援普及事業の実施

##### ① 相談支援の実施

支援拠点機関において、相談支援コーディネーターを配置し、専門的な相談支援及び地域の関係機関との調整を行う。

##### ② 普及啓発活動及び研修の実施

- ・正しい理解の促進のためのHP、パンフレット等による普及啓発や相談窓口の周知。
- ・自治体職員、保健・福祉・医療関係者等を対象とする研修会を開催し、高次脳機能障がいの評価・診断・手法等に関する研修及び普及啓発を実施。

##### 特別な配慮を必要とする児童生徒を理解・支援していくための研修会

平成31年1月11日（金） 13:00～16:30 大通会館リリオ3階イベントホール

##### 高次脳機能障がい者支援研修会（医師及びコメディカル対象）

平成31年2月7日（木） 18:30～20:30 ホテルニューカーリーナアイリス

##### 行動に障がいのある方を理解・支援していくための研修会

平成31年3月9日（土） 9:30～15:30 岩手県自治会館3階第1会議室

- ・各種会議、研修を通じて行政担当者、相談支援従事者等の連携を推進する。

##### ③ 県連絡協議会の設置・運営

連絡協議会委員による事業全体の検討及び評価を実施する。

##### 平成30年度第1回連絡協議会

平成30年8月23日（木） 15:00～16:30 岩手県水産会館5階大会議室

##### 平成30年度第2回連絡協議会

平成31年3月29日（金） 15:00～16:30 エスポワールいわて3階特別ホール

##### ④ ワーキンググループの設置・運営

事例を通じた支援モデルの構築を図る。

##### 平成30年度第1回ワーキンググループ

平成30年12月6日 14:00～16:00 アイーナ801 特別会議室

#### (2) 高次脳機能障がい者支援体制整備事業（地域支援）の実施

##### ⑤ 地域支援コーディネーターの配置

地域支援を行うため、支援拠点機関に地域支援コーディネーターを配置する。

##### ⑥ 地域の支援拠点等への訪問支援等

地域の支援拠点等が実施する相談支援やケース会議等への助言や研修の企画支援等を訪問支援等により実施し、相談支援ネットワークの強化を図る。

##### ⑦ 地域の支援拠点の支援者等育成研修

##### 圏域相談支援コーディネーター研修会

平成30年11月30日（金） 13:30～16:20 エスポワールいわて3階特別会議室

## 2 地域の支援拠点の設置 H27～

身近な地域で、受傷・発症から社会復帰まで切れ目なく相談・支援を行うことができるよう、順次障がい保健福祉圏域ごとに地域支援拠点を設置し、相談支援体制を整備するとともに、高次脳機能障がいの正しい理解の普及啓発を行う。

1 年目	2 年目	3 年目以降
<p><b>■ 高次脳機能障がい者 地域支援体制整備事業</b></p> <p><b>【概要】</b> 地域の関係機関の連携による相談支援体制を整備するために、地域の支援拠点を設置し、高次脳機能障がい者に対する支援を行う。</p> <p><b>【内容】</b></p> <p>① 連絡会の設置・運営 ② 関係機関とのケース会議 ③ 地域の相談支援等 ④ 高次脳機能障がい支援者研修 ⑤ 家族等に対する普及啓発（家族教室等）</p>	<p><b>■ 高次脳機能障がい者 支援普及事業</b></p> <p><b>【概要】</b> 高次脳機能障がいの正しい理解の普及啓発を行う。</p> <p><b>【内容】</b></p> <p>⑥ 普及・啓発事業 一般住民、家族、当事者、支援者等への正しい理解の普及啓発</p> <p>※①～⑤は、地域自立支援協議会や市町村の障がい者の相談支援体制等の地域の実情に合わせた既存の枠組みの中で、支援体制整備事業で行ったノウハウを活かした高次脳機能障がい者に対する支援を行っていくもの。</p>	<p>※地域自立支援協議会や市町村の障がい者の相談支援体制等の地域の実情に合わせた既存の枠組みの中で、支援体制整備事業や支援普及事業で行ったノウハウを活かした高次脳機能障がい者に対する支援を行っていくもの。</p>

### 【実績及び今後の計画】

	H27 年度実績	H28 年度実績	H29 年度実績	H30 年度計画	H31 年度計画
2 圏域 (気仙・宮古)	体制整備事業	支援普及事業			
2 圏域 (久慈・二戸)		体制整備事業	支援普及事業		
2 圏域 (胆江・釜石)			体制整備事業	支援普及事業	
2 圏域 (盛岡・中部)				体制整備事業	支援普及事業

### 【地域の支援拠点の設置状況】

年度	圏域	委託先	地域の支援拠点
27	気仙	社会福祉法人大洋会	地域活動支援センター星雲 相談室
	宮古	NPO 法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット	相談支援事業所れいんぼー
28	久慈	社団医療法人祐和会	地域生活支援センター久慈
	二戸	社会福祉法人カシオペア障連	地域生活支援センター・カシオペア
29	釜石	釜石大槌地域障がい者自立支援協議会	地域活動支援センター釜石
	胆江	奥州市	愛護会障害者相談支援センター
30		社会福祉法人フレンドシップいわて	指定相談支援事業所サポートにじ
30	盛岡	NPO 法人いわて脳外傷友の会イーハトーヴ	いわて脳外傷友の会イーハトーヴ
	中部	NPO 法人いわて脳外傷友の会イーハトーヴ	いわて脳外傷友の会イーハトーヴ県南地区
	両磐	—	—

※ 両磐圏域については、圏域内の市町や関係機関と協議を重ねた結果、県の委託による事業は実施せず、既存の相談支援体制により対応されることとなったため、委託先及び地域の支援拠点はありませぬ。

## II 事業実施報告

### 1. 事業報告書

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業

岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業「県の支援拠点機関による地域支援」

#### 1 30年度の重点事項

- (1) 地域の実情に合わせて、高次脳機能障がい者の受け入れの拡大を図る。
- (2) 地域の支援ネットワークの構築に向けて、関係機関の調整を図る。

#### 2 支援ネットワーク構築のための連絡協議会の開催

- (1) 高次脳機能障がい者支援普及事業連絡協議会
  - ① 第1回 平成30年8月23日 岩手県水産会館（出席者26名）
  - ② 第2回 平成31年3月29日 エスポワールいわて（出席者27名）
- (2) 高次脳機能障がい者支援ワーキンググループ
  - ① 第1回 平成30年12月6日 アイーナ（出席者14名）

#### 3 事業運営のための会議の開催

- (1) 高次脳機能障がい者支援担当者会議 12回開催
- (2) 高次脳機能障がい者カンファレンス 12回開催
- (3) 相談支援コーディネーター会議 27回開催

#### 4 専門的な相談支援体制の整備

相談支援コーディネーター4名（MSW、臨床心理士、各2名）を配置し、専門的な相談支援及び関係機関との連絡調整を行った。

- (1) 当事者及び家族の相談支援 のべ1,004件（4/1～3/31まで）【参考】H29同期間のべ647件

相談及び対応の方法	件数	【参考】H29	比較増減
電話	103件	67件	+36
来院／来所	868件	544件	+324
メール・書簡	18件	6件	+12
その他（訪問・同行等）	15件	29件	-14

- (2) 機関及び施設等の相談支援 のべ162件（4/1～12/31まで）【参考】H29同期間のべ147件

相談及び対応の方法	件数	【参考】H29	比較増減
電話	114件	97件	+17
来院／来所	8件	10件	-2
メール・書簡	35件	24件	+11
その他（訪問・同行等）	5件	16件	-11

#### 5 支援の普及に向けた研修会の開催

- (1) 高次脳機能障がい圏域コーディネーター研修会（圏域のコーディネーター対象）  
平成30年11月30日 エスポワールいわて（参加者17名）
- (2) 特別な配慮を必要とする児童生徒を理解・支援していくための研修会（現場支援者対象）  
平成31年1月11日 コミュニケーションギャラリーリリオ（参加者64名）

- (3) 高次脳機能障がい支援研修会（医師及びコメディカル対象）  
平成 31 年 2 月 7 日 ホテルニューカーリーナ（参加者 118 名）
- (4) 行動に障害のある方を理解・支援していくための研修会（現場支援者対象）  
平成 31 年 3 月 9 日 岩手県自治会館（参加者 50 名）

## 6 地域における支援体制整備のための支援

- (1) 宮古圏域：地域支援拠点機関のレインボーネットと協働して地域支援体制の整備を図った。
  - ① 連絡協議会
    - ・平成 30 年 7 月 4 日 第 1 回連絡協議会（職員 2 名派遣）
    - ・平成 31 年 2 月 15 日 第 2 回連絡協議会（職員 1 名派遣）
  - ② 研修会
    - ・平成 30 年 11 月 17 日 脳損傷リハビリテーション講習会（職員 3 名派遣）
  - ③ 家族教室
    - ・平成 30 年 7 月 24 日 第 1 回家族教室（職員派遣なし）
    - ・平成 30 年 10 月 23 日 第 2 回家族教室（職員派遣なし）
    - ・平成 31 年 1 月 22 日 第 3 回家族教室（職員派遣なし）
- (2) 気仙圏域：地域支援拠点機関の星雲相談室と協働して地域支援体制の整備を図った。
  - ① 連絡協議会
    - ・平成 31 年 3 月 1 日 第 1 回連絡協議会（職員 1 名派遣）
- (3) 久慈圏域：地域生活支援センター久慈と協働して地域支援体制の整備を図った。
  - ① 研修会
    - ・平成 30 年 11 月 18 日 脳損傷リハビリテーション講習会（職員 2 名派遣）
- (4) 釜石圏域：釜石大槌地域障がい者自立支援協議会と協働して地域支援体制の整備を図った。
  - ① 研修会
    - ・平成 31 年 3 月 25 日 高次脳機能障がい講演会（職員 1 名派遣）
- (5) 胆江圏域：奥州市・金ヶ崎町障がい者自立支援協議会と協働して地域支援体制の整備を図った。
  - ① 連絡協議会
    - ・平成 30 年 6 月 19 日 第 1 回連絡協議会（職員 1 名派遣）
    - ・平成 31 年 2 月 26 日 第 2 回連絡協議会（職員 1 名派遣）
  - ② ワーキンググループ会議
    - ・平成 30 年 4 月 18 日 第 1 回ワーキンググループ会議（職員 1 名派遣）
    - ・平成 30 年 12 月 5 日 第 2 回ワーキンググループ会議（職員派遣なし）
  - ③ 研修会
    - ・平成 30 年 11 月 3 日 高次脳機能障がい支援者向け研修会（職員 2 名派遣）
  - ④ 家族教室
    - ・平成 30 年 10 月 15 日 第 1 回家族教室（職員 1 名派遣）
    - ・平成 31 年 1 月 19 日 第 2 回家族教室（職員 1 名派遣）
- (6) 盛岡圏域：いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴと協働して地域支援体制の整備を図った。
  - ① 連絡協議会
    - ・平成 30 年 11 月 27 日 第 1 回連絡協議会（職員 2 名派遣）
    - ・平成 31 年 3 月 14 日 第 2 回連絡協議会（職員 2 名派遣）
  - ② 研修会
    - ・平成 31 年 1 月 14 日 高次脳機能障がい支援者研修会（職員 1 名派遣）
  - ③ 家族教室
    - ・平成 31 年 1 月 12 日 第 1 回家族教室（職員 1 名派遣）



- ・平成 31 年 2 月 9 日 第 2 回家族教室（職員 1 名派遣）
  - ・平成 31 年 3 月 16 日 第 3 回家族教室（職員 1 名派遣）
  - ④ 事例検討会
    - ・平成 31 年 1 月 17 日 事例検討会（職員 3 名派遣）
  - ⑤ 事前打ち合わせ等
    - ・平成 30 年 4 月 16 日 事前打ち合わせ（職員 2 名派遣）
    - ・平成 30 年 9 月 3 日 振興局を交えた打ち合わせ（職員 1 名派遣）
- (7) 岩手中部圏域：いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ県南支部と協働して地域支援体制の整備を図った。
- ① 連絡協議会
    - ・平成 30 年 10 月 23 日 第 1 回連絡協議会（職員 1 名派遣）
    - ・平成 31 年 3 月 18 日 第 2 回連絡協議会（職員 2 名派遣）
  - ② 研修会
    - ・平成 31 年 1 月 13 日 高次脳機能障がい支援者研修会（職員 1 名派遣）
  - ③ 家族教室
    - ・平成 31 年 1 月 17 日 第 1 回家族教室（職員派遣なし）
    - ・平成 31 年 2 月 14 日 第 2 回家族教室（職員 1 名派遣）
  - ④ 事例検討会
    - ・平成 31 年 1 月 31 日 事例検討会（職員 2 名派遣）
  - ⑤ 事前打ち合わせ等
    - ・平成 30 年 6 月 19 日 県南支部担当、県庁担当者と事前打ち合わせ（職員 1 名派遣）
    - ・平成 30 年 8 月 22 日 振興局を交えた打ち合わせ（職員 1 名派遣）
- (8) 日々ノート：ノートの周知、広報活動を行った。ノートの使用事例の研究報告を行った。

## 7 事業周知のためのPR・広報活動の実施

当センター及び国立障害者リハビリテーションセンターのホームページにて研修情報を掲載した。また、メールニュースを配信し、高次脳機能障がいに対する理解と支援の拡大を図った。さらに、高次脳機能障がいについての理解を深めながらレクリエーション活動を行うためのツールとして、高次脳機能障がいかるたを作成した。

## 8 当事者・家族を中心とした普及啓発事業の実施

高次脳機能障がいの普及啓発を目的に当事者・家族を中心とした交流会を開催した。  
平成 30 年 9 月 17 日 じゃじゃじゃ交流会（参加者 86 名）

## 9 全国・東北ブロック組織及び県内関係機関との連携・協力

### (1) 会議及び研修会等での連携

会議名・研修会名等	期日	場所	出席者等
高次脳機能障害全国連絡協議会 第 1 回	6/27	所沢市	3 名（県庁・リハセンター担当者）
第 2 回	2/22	東京都	2 名（リハセンター担当者）
高次脳機能障害東北ブロック会議	10/27	秋田市	3 名（県庁・リハセンター担当者）
市町村関係職員研修会	4/20	盛岡市	講師として職員 1 名派遣
地域包括支援センター研修会	11/21	大槌町	講師として職員 3 名派遣
岩手県保健福祉環境行政セミナー	2/8	盛岡市	報告者として職員 1 名派遣

障がい理解講座	3/4	滝沢市	講師として職員 1 名派遣
民生委員研修会	3/7	金ヶ崎町	講師として職員 1 名派遣
地域包括ケアネットワーク研修会	3/14	北上市	講師として職員 1 名派遣
障がい者相談支援事業所会議	3/15	紫波町	講師として職員 1 名派遣
いわて脳損傷リハビリテーション講習会 IN 宮古	11/17	宮古市	実行委員として職員 3 名派遣
いわて脳損傷リハビリテーション講習会 IN 久慈	11/18	久慈市	実行委員として職員 2 名派遣

(2) 機関としての連携

- ①いわて高次脳機能障害友の会「イーハトーヴ」
  - ・研修会及び講習会の開催、地域支援拠点機関の支援について連携協力を行った。
- ②岩手県立療育センター
  - ・共通して支援を行ったケースについて情報交換を行った。
- ③岩手障害者職業センター
  - ・高次脳機能障がいのケース支援を協働で行った。

**10 コーディネーターのスキルアップのための研修派遣**

- (1) 高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議
  - 第 1 回 平成 30 年 6 月 27 日 国立障害者リハビリテーションセンター（職員 2 名派遣）
  - 第 2 回 平成 31 年 2 月 22 日 大手町サンケイプラザ（職員 2 名派遣）
- (2) 脳外傷友の会第 17 回全国大会
  - 平成 30 年 10 月 19 日～20 日 三重県四日市市（職員 1 名派遣）
- (3) 高次脳機能障害関係職員研修会
  - 平成 30 年 6 月 28 日～29 日 国立障害者リハビリテーションセンター（職員 1 名派遣）
- (4) 高次脳機能障害実践的アプローチ講習会
  - 平成 30 年 9 月 16 日、12 月 9 日 東京都（職員 1 名派遣）
- (5) 小児高次脳機能障害支援者向け研修会
  - 平成 31 年 2 月 23 日 千葉県千葉リハビリテーションセンター（職員 1 名派遣）
- (6) 就業支援基礎研修
  - 平成 30 年 7 月 20 日、23 日、24 日 盛岡市（職員 1 名派遣）
- (7) 医療ソーシャルワーカー基幹研修 I
  - 平成 30 年 8 月 8 日～12 日 東京都（職員 1 名派遣）
- (8) ソーシャルワークスキルアップ研修「記録」
  - 平成 30 年 9 月 22 日～23 日 愛知県名古屋市（職員 1 名派遣）

## 2 相談支援状況 (平成30年度)

	新規	継続	主治医		方法								カン ファレ	合計
					面談		電話		訪問		文書			
			当院	他院	直接	間接	直接	間接	直接	間接	直接	間接		
4月	0	66	57	9	63	2	9	11	0	0	3	7	1	95
5月	1	87	86	2	77	0	9	12	4	0	1	1	0	104
6月	2	66	67	1	65	0	9	9	2	0	2	4	0	91
7月	5	80	81	4	77	0	11	6	0	0	0	3	0	97
8月	2	72	70	2	70	0	10	6	2	0	0	0	1	88
9月	4	70	69	5	59	0	5	14	1	0	3	3	1	85
10月	6	101	101	6	92	1	12	12	0	0	2	3	1	122
11月	5	75	76	4	72	0	1	5	0	0	2	1	1	81
12月	7	65	64	8	62	0	5	13	0	0	0	6	1	86
1月	3	102	97	8	89	2	12	10	4	4	0	0	7	121
2月	3	75	75	2	68	2	7	6	0	1	0	4	2	88
3月	2	95	95	2	74	1	13	10	2	0	5	3	0	108
合計	40	954	938	53	868	8	103	114	15	5	18	35	15	

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来受診	4	2	3	4	1	3	4	1	10	4	2	2	40
入院検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
診断/評価	2	1	5	12	0	5	11	4	2	15	10	4	71
医療/生活	1	0	3	5	8	4	4	2	3	3	1	3	37
交通事故関係	0	2	1	2	0	2	4	1	2	1	0	0	15
障害者手帳関係	3	1	2	2	1	1	2	2	2	1	2	3	22
福祉サービス利用	6	10	6	5	11	8	11	3	8	6	5	10	89
年金/社会保障制度	4	2	2	1	2	2	5	2	4	6	1	6	37
日常生活	37	54	33	45	38	30	47	43	36	54	35	35	487
家族/対人関係	1	0	3	3	3	4	0	0	4	0	1	0	19
復学/教育	1	4	1	4	8	2	5	2	2	10	9	4	52
復職/就業	30	35	28	33	39	37	48	42	29	51	38	47	457
職業訓練/評価	0	0	0	2	2	2	6	6	8	0	0	2	28
自動車運転関係	6	12	6	3	12	4	7	7	6	4	9	8	84
障害理解/対応	1	0	1	2	6	0	0	1	2	0	1	3	17
家族会関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	6	1	1	3	0	4	0	3	5	4	3	30

# 相談支援状況報告書

## 【相談支援の概要】

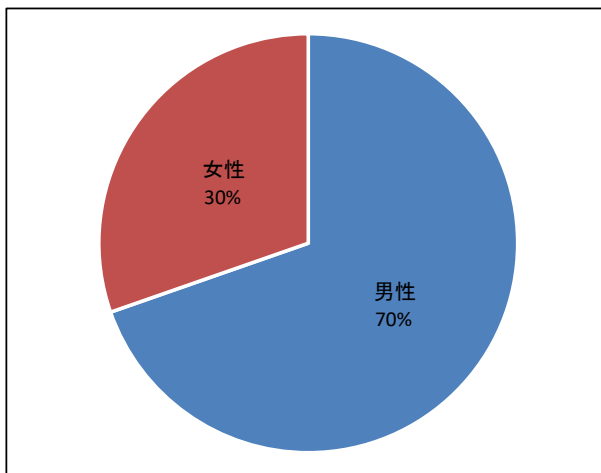
1 相談件数 延べ1,004件 (4/1~3/31) 実人数89人 ※平成29年度同期間実績：794件 (実人数100名)

### 2 相談対象者の属性

#### (1) 性別

男性：62名 (70%)

女性：27名 (30%)



#### (2) 年齢構成

10歳代：12名 (13%)

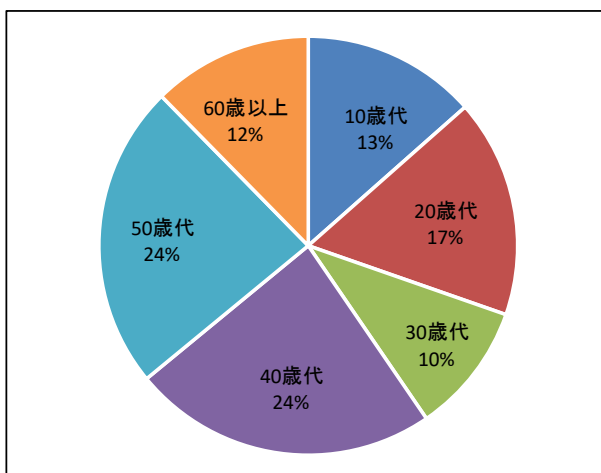
20歳代：15名 (17%)

30歳代：9名 (10%)

40歳代：21名 (24%)

50歳代：21名 (24%)

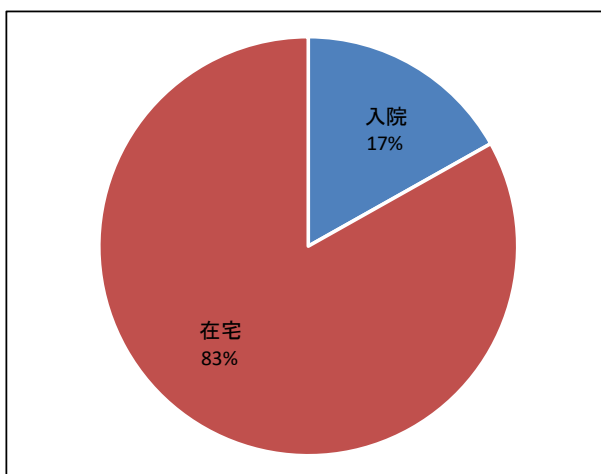
60歳以上：11名 (12%)



#### (3) 相談時の状況

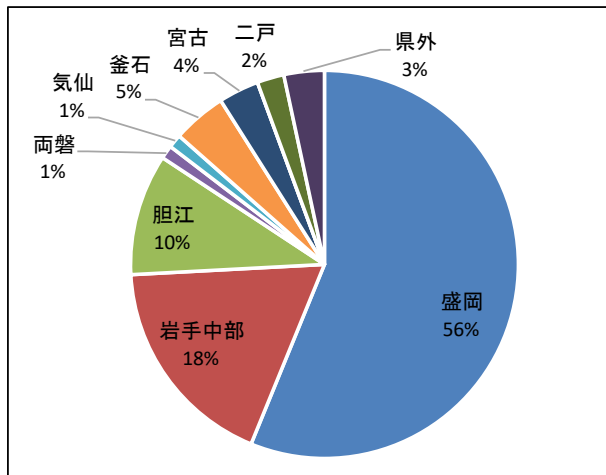
入院中：15名 (17%)

在宅：74名 (83%)



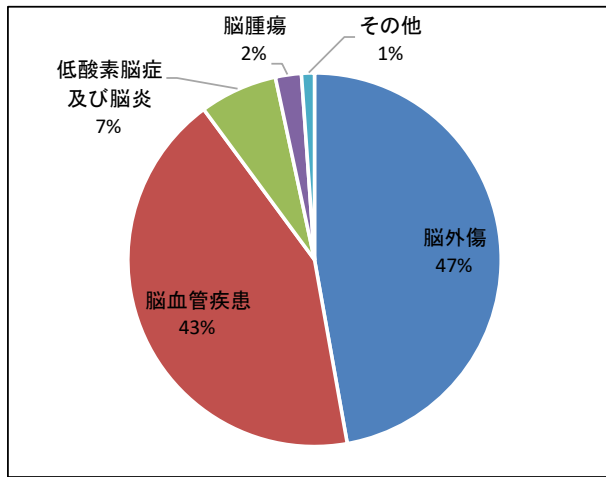
(4) 居住地圏域

盛岡：50名（56%）  
 岩手中部：16名（18%）  
 胆江：9名（10%）  
 両磐：1名（1%）  
 気仙：1名（1%）  
 釜石：4名（5%）  
 宮古：3名（4%）  
 久慈：0名（0%）  
 二戸：2名（2%）  
 県外：3名（3%）



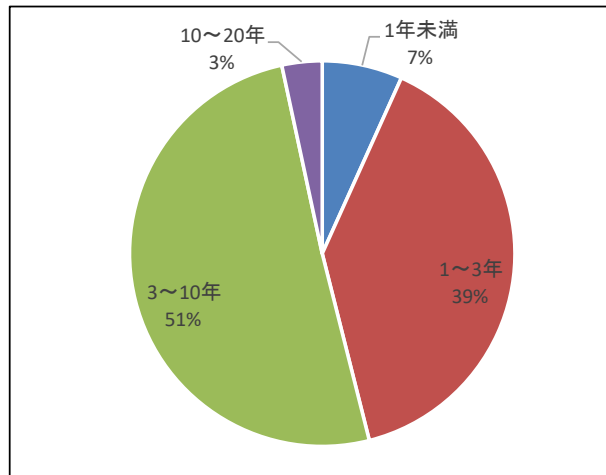
(5) 原因傷病

脳外傷：42名（47%）  
 脳血管疾患：38名（43%）  
 低酸素脳症・脳炎：6名（7%）  
 脳腫瘍：2名（2%）  
 その他：1名（1%）



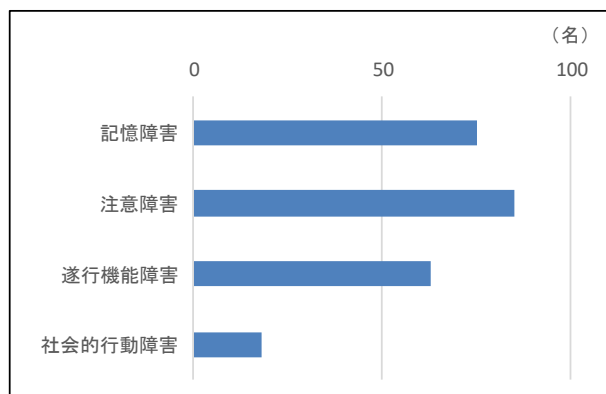
(6) 発症からの期間

1年未満：6名（7%）  
 1～3年：35名（39%）  
 3～10年：45名（51%）  
 10～20年：3名（3%）



(7) 障害の状況（重複あり）

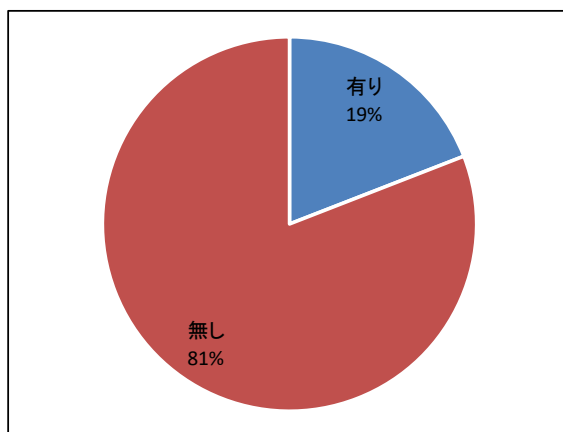
記憶障害：75名  
 注意障害：85名  
 遂行機能障害：63名  
 社会的行動障害：18名



(8) 身体障害者手帳の有無

有り：17名（19%）

無し：72名（81%）

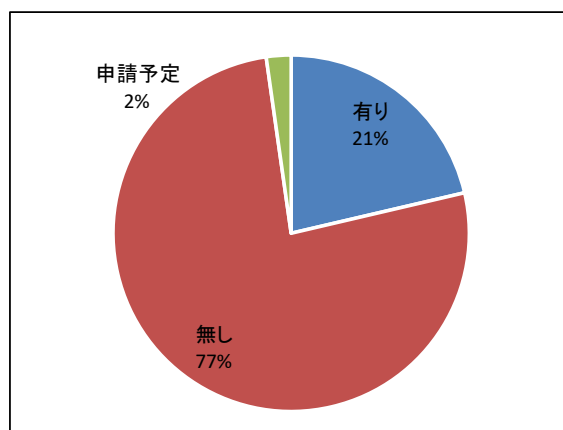


(9) 精神保健福祉手帳の有無

有り：19名（21%）

無し：72名（77%）

申請予定：2名（2%）

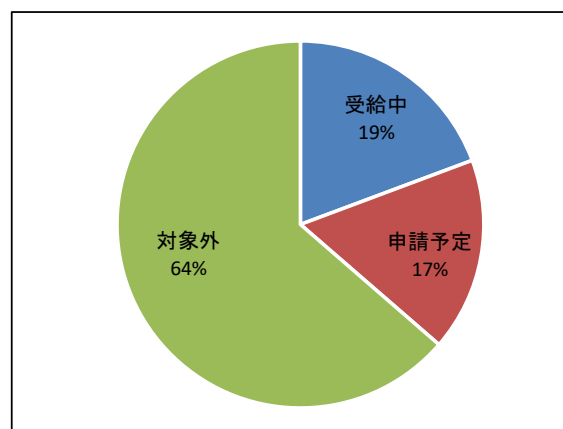


(10) 障害年金の受給状況

受給中：17名（19%）

申請予定：15名（17%）

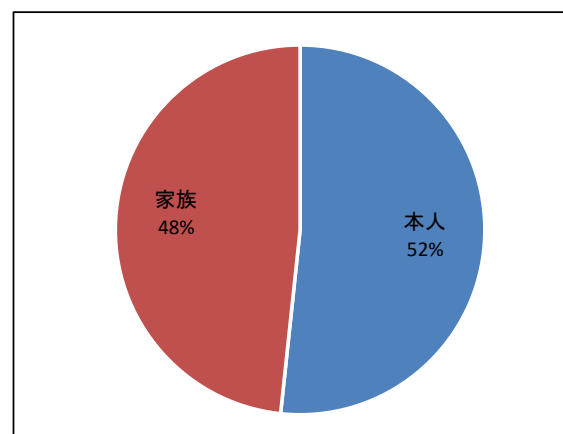
対象外：56名（64%）



3 主な相談者

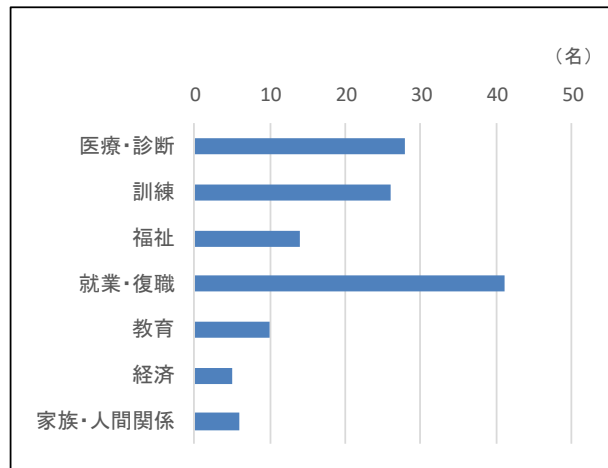
本人：46名（52%）

家族：43名（48%）



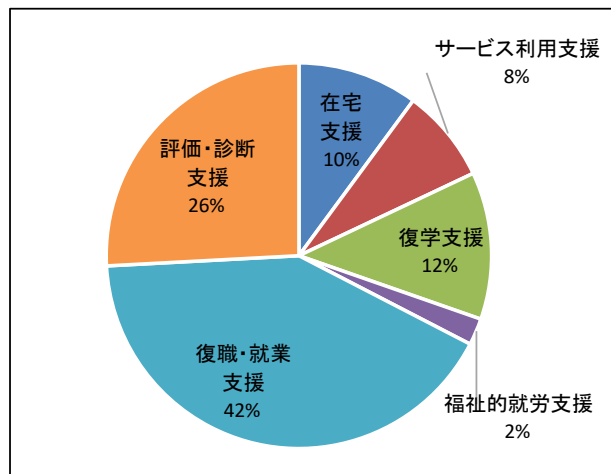
#### 4 相談内容（重複）

医療・診断：28名  
 訓練：26名  
 福祉：14名  
 就業・復職：41名  
 教育：10名  
 経済：5名  
 家族・人間関係：6名



#### 5 支援内容

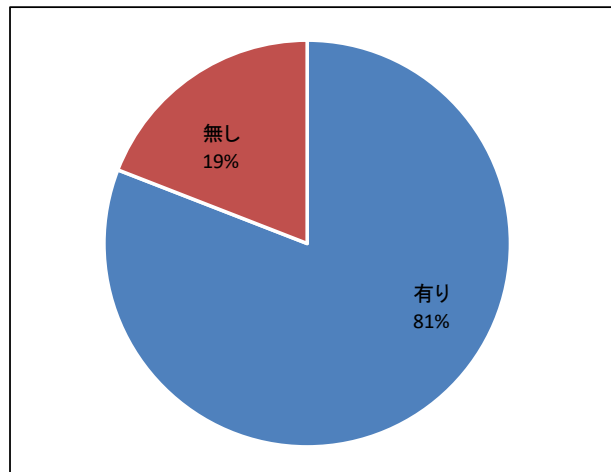
在宅支援：9名（10%）  
 サービス利用支援：7名（8%）  
 復学支援：11名（12%）  
 福祉的就労支援：2名（2%）  
 復職・就業支援：37名（42%）  
 評価診断支援：23名（26%）



#### 6 関係機関との連携

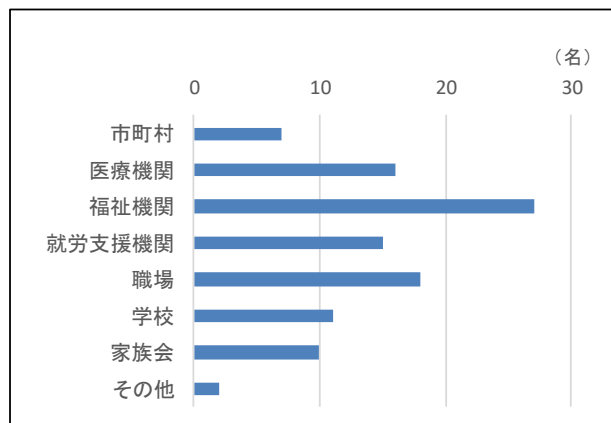
##### (1) 連携の有無

有り：72名（81%）  
 無し：17名（19%）



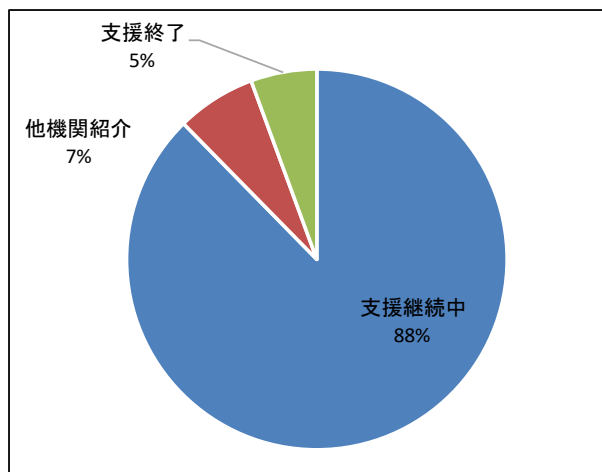
##### (2) 連携の状況（重複）

市町村：7名  
 医療機関：16名  
 福祉機関：27名  
 就労支援機関：15名  
 職場：18名  
 学校：11名  
 家族会：10名  
 その他：2名



## 7 現在の状況

支援継続中：78名（88%）  
 他機関紹介：6名（7%）  
 支援終了：5名（5%）



## 8 支援の結果

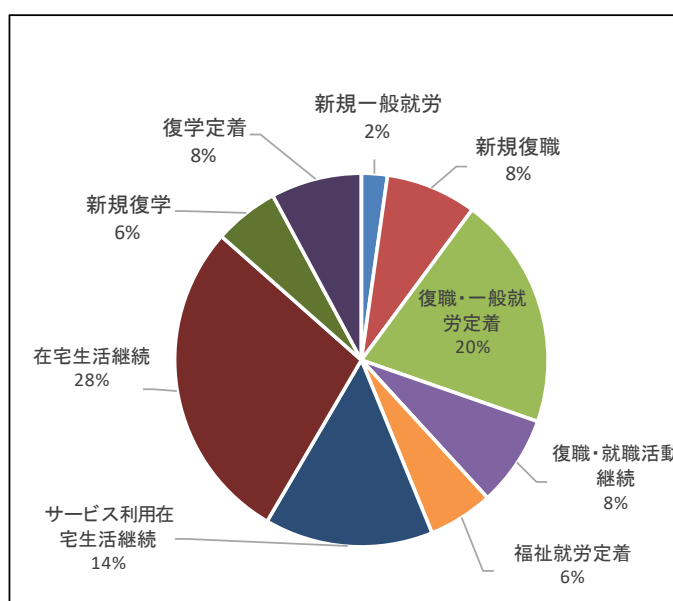
☆新規一般就労：2名 小計34名  
 ☆新規復職：7名  
 復職・就労定着：18名  
 復職・就職活動継続：7名

☆新規福祉的就労：0名 小計5名  
 福祉的就労定着：5名

サービス利用 小計38名  
 在宅生活継続：13名  
 在宅生活継続：25名

☆新規復学：5名 小計12名  
 復学定着：7名

その他：0名 小計0名



## 9 相談支援例

- 障害者職業センターと連携して職場復帰を支援しているケース
- 職場復帰後のフォローアップを継続しているケース
- 復学後の小学生をフォローアップを継続しているケース
- 生生学舎アダージョと連携のうえ、相互で訓練を行っているケース
- 地域の病院からの検査及び評価依頼で関わったケース
- 就労継続B型施設で福祉就労をしていたが、定着出来ずに在宅療養しているケース
- 復職を果たしたが、社会的行動障害により退職になったケース



### 3. 精算書

#### 平成30年度岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業収支精算書

##### 収入

単位:円

科目	予算額	精算額	差額	摘要
1 委託料収入	3,163,017	3,163,017	0	岩手県
2 自己資金	0	147,248	△ 147,248	
合計	3,163,017	3,310,265	△ 147,248	

##### 支出

単位:円

項目	予算額	精算額	差額	摘要
1 人件費支出	1,600,000	1,425,511	174,489	職員分人件費
2 諸謝金	504,000	439,670	64,330	委員等報償費
3 旅費交通費	158,000	154,188	3,812	委員及びコーディネーター等分
4 印刷製本費	332,400	550,700	△ 218,300	研修会、協議会資料、かるたの印刷代等
5 通信運搬費	158,320	178,158	△ 19,838	研修会、協議会等の郵送料等
6 会議費	56,000	75,951	△ 19,951	連絡協議会の際の茶菓代等
7 賃借料	120,000	251,790	△ 131,790	研修会、協議会等の会場経費
8 租税公課	234,297	234,297	0	消費税
合計	3,163,017	3,310,265	△ 147,248	

平成30年度岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備業「県の支援拠点機関による地域支援」収支精算書

収入

単位:円

科目	予算額	精算額	差額	摘要
1 委託料収入	5,862,177	5,862,177	0	岩手県
2 自己資金	0	27,555	△ 27,555	
合計	5,862,177	5,889,732	△ 27,555	

支出

単位:円

項目	予算額	精算額	差額	摘要
1 人件費支出	3,800,000	3,593,288	206,712	職員分人件費
2 諸謝金	20,000	3,900	16,100	研修会講師謝金
3 旅費交通費	490,750	846,055	△ 355,305	支援コーディネーター等の研修旅費
4 印刷製本費	195,000	81,380	113,620	研修会資料等
5 通信運搬費	105,600	114,130	△ 8,530	研修会案内の郵送料等
6 賃借料	815,592	810,504	5,088	研修会会場費、公用車及び、パソコンリース料
7 会議費	1,000	6,240	△ 5,240	研修会講師昼食代
8 租税公課	434,235	434,235	0	消費税
合計	5,862,177	5,889,732	△ 27,555	

#### 4 会議・研修会実績

日	会議及び研修会名	テーマ	講師名	参加者数
8/23	第1回岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業連絡協議会	—	—	26名
11/30	圏域相談支援コーディネーター研修会	岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業の概要について	岩手県保健福祉部障がい保健福祉課 技師 新屋 友香里 氏	17名
		地域支援拠点の取り組みについて	指定相談支援事業所サポートにじ 相談支援専門員 高橋 由紀 氏	
		高次脳機能障害のある方が住み慣れた地域で生活するための支援について	いわてリハビリテーションセンター 総合相談科長 上田 大介	
12/6	高次脳機能障がい者支援ワーキンググループ	高次脳機能障がいカルタについて	—	14名
1/11	特別な配慮を必要とする児童生徒を理解・支援していくための研修会	特別支援学校における地域支援	岩手県立盛岡となん支援学校 特別支援教育コーディネーター 高橋 美紀子 氏	64名
		小児の高次脳機能障がいとその支援について	横浜市総合リハビリテーションセンター 臨床心理士 山口 加代子 氏	
2/7	高次脳機能障がい者支援研修会 (医師及びコメディカル対象)	いわてリハビリテーションセンターにおける運転再開の取り組み	いわてリハビリテーションセンター 作業療法科副科長 大久保 訓	122名
		高次脳機能障害者の自動車運転：評価と支援	慶應義塾大学医学部 精神・神経科学講座 教授 三村 将 氏	
3/9	行動に障害のある方を理解・支援していくための研修会	行動障害の概要と支援のあり方～高次脳機能障害と発達障害を中心に～	国立障害者リハビリテーションセンター 高次脳機能障害情報・支援センター センター長 深津 玲子 氏	50名
		行動障害のある方の社会復帰支援について～高次脳機能障害と発達障害を中心に～	国立障害者リハビリテーションセンター 精神障害者社会復帰指導専門職 和田 愛祐美 氏	
3/29	第2回岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業連絡協議会	—	—	27名

i) 圏域コーディネーター支援研修会

**平成30年度新事業高次脳機能障害がい者地域支援体制整備事業  
圏域相談支援コーディネーター研修会開催要綱**

- 1 目的  
高次脳機能障害の多くは外界からは分かりにくく、本人も自覚していないことが多く、家族からも理解されにくい状況にあります。また、社会生活上様々な支援が生じていても、身体機能に障害がない場合は、社会的な支援がされにくい状況にあります。  
本研修会はこの障がいへの支援を行う専門職を対象に、その特性とその対応について理解を深めるとともに地域での支援ネットワークの醸成を目的に開催します。
- 2 主催  
公益財団法人いわてリハビリテーションセンター
- 3 期日  
平成30年11月30日(金) 13:30～16:10
- 4 会場  
エスゴワールいわて 特別会議室  
〒000-0021 盛岡市中央通1丁目1-38  
電話 019(823)8251 FAX 019(823)8251
- 5 対象  
圏域相談支援コーディネーター及び相談支援事業所職員等  
※これまでに高次脳機能障害がいり研修会を受講したことがある方  
※高次脳機能障害がいに関する基礎的な知識を有する方
- 6 定員 20名程度
- 7 内容 別紙日程表のとおり
- 8 参加申込み  
別紙の参加申込書により。  
11月16日(金)までに下記までにFAX又は電話にてお申し込み下さい。  
いわてリハビリテーションセンター (担当:高次脳機能障害い担当 上田・石録)  
〒000-0000 岩手県平石町七ツ森16-243 TEL:019-692-5800 FAX:019-692-5807  
※会場都合により、人数の調整をお願いする場合がありますので、ご了承願います。

**平成30年度新事業高次脳機能障害がい者地域支援体制整備事業  
圏域相談支援コーディネーター研修会日程表**

時間	内容	講師
13:00～	受付	
13:30～ 14:00	行政説明 「岩手県高次脳機能障害がい者地域支援体制整備事業の概要について」	岩手県保健福祉部障がい保健福祉課 技師 新藤 友香里 氏
14:00～ 15:00	活動報告・グループワーク 「高次脳機能障害がい地域支援拠点の取り組みについて」	指定相談支援事業所サポートにじ 相談支援専門員 高橋 由紀 氏
15:00～ 15:10	休憩	
15:10～ 16:10	事例報告・グループワーク 「高次脳機能障害のある方が住み慣れた地域で生活するための支援について」	いわてリハビリテーションセンター 総合相談科長 上田 大介
16:10	終了	



## 平成30年度圏域相談支援コーディネーター研修会 アンケート

参加者 17名

日時: H30.11.30(金)

回答者 17名 回答率 100%

会場: エスポワールいわて 特別会議室

### 1 受講者について

勤務先					
相談支援事業所	12	その他	4	無回答	1

所在地									
盛岡市	8	矢巾町	1	宮古市	2	岩泉町	1	北上市	1
釜石市	1	奥州市	1	金ケ崎町	1	無回答	1		

### 2 研修プログラムについて

岩手県における高次脳機能障がい支援の取り組み	
A: 大変参考になった	8
B: 参考になった	5
C: 普通	3
D: あまり参考にならなかった	0
無回答	1

- ・少しずつ地域に根付いているが、まだまだ理解されていない面もある。
- ・県南の動きにくらべ、盛岡の動きが少ない事におどろきもありました。地域が広すぎるといことが大きいかもしれないと感じました。まだまだ勉強をさせていただきます。ありがとうございます。
- ・何度か説明を聞いているので分かったが、初めての方は十分に理解する事はむずかしいかと思う。
- ・このような行政計画によって高次脳の方々の支援体制が整えられていることを改めて学べてよかったです。これが、相談支援の中にあまり浸透していないように感じます。
- ・全国的、県の課題がよく分かりよかったですと思います。
- ・流れがわかった。継続していける事業に。

活動報告: 高次脳機能障がい地域支援拠点の取り組みについて	
A: 大変参考になった	10
B: 参考になった	5
C: 普通	0
D: あまり参考にならなかった	0
無回答	2

- ・支援事業所だけでなく、家族会の大切さ、つながりの大切さがよくわかった。
- ・地域での成果が感じられたので少しずつでも続ける事の大切さを感じました。
- ・地域によってワーキンググループの組み方の違いがあることがわかりました。毎月の集まりは大変だったと思いますが、素晴らしい実践につながったと思います。
- ・これから進めていく上での参考になった。後半になっての凝縮した感じでやられている感じが大変そうにみえた。
- ・もっと大きな波になって、情報もすぐみつけられるくらいになるといいと思います。
- ・他圏域のとりのりみ状況を知ることができ、地域によって連絡会のメンバーなどの構成がさまざまであることがわかりました。
- ・複雑な障害を端的にまとめて下さったと思います。
- ・自分達の活動が整理され、改めて振り返ることができた。
- ・自身の報告でしたが、自立支援協議会との関係やしきみ等、理解できていなくてすみません。すっかり事務局まかせでした。

事例・グループワーク: 高次脳機能障がいのある方が住み慣れた地域で生活するための支援について	
A: 大変参考になった	14
B: 参考になった	2
C: 普通	0
D: あまり参考にならなかった	0
無回答	1

- ・グループワーク…どうすればよいのかとまとめたが、みなさんがリードしてくれてスムーズにまとまった。意見を出し合ってまとめる…充実した時間だった
- ・他の地域で活動している方々とグループワークする事で地域の特徴もあり、勉強になる事が多かった。
- ・強みから見ていくことの大切さ、多職種連携の大切さを感じました。
- ・プロの方々の話が聞けて、とても勉強になった。
- ・医療、行政、福祉サービス、家族、その他、いろんな人達の協力があって、はじめて地域で生活できることを改めて勉強になりました。
- ・大変勉強になりました。多職種の方が参加していたので良かったです。
- ・高次脳の方に対してその人の強み、課題を含めて、その人に合わせた支援の仕方を色々意見交換でき、とても良かったです。
- ・グループワークはいつも勉強になる
- ・盛岡圏域はこれから活発になってくるのだと思います。当事者、当事者の家族だからこそ、わかりあえる貴重な場をこれからも大切にしなければと感じました。
- ・生活する地域に合わせたサービスを考えたGWは楽しかったです。参考になりました。

### 3 意見、感想など

- ・不安もありましたが研修会に参加してよかったです。とても勉強になりました。
  - ・支援にまつわる研修を続けていくことの大切さをあらためて感じました。今後ともよろしく願い致します。
  - ・事例検討で相談したいケースがあります。他の方の事例もきいて参考にしたいです。
  - ・支援の継続よろしく願いします。
  - ・まだお会いしていませんが、これからはあると思うので、ていねいに対応したいと思います。
  - ・ありがとうございました。講義、GW等で勉強することができました。このような機会がまたいただければ有難いです。
  - ・長く継続した支援のための研修、連携を続けて欲しい。
- ・現在、高次脳のケースを担当することが増えています。就労施設の現場では、「個に配慮した支援にも限界がある」ということが多く、当事者の困り感とマッチングしないケースもよくあります。なかなか見極めがむずかしいところもありますが、だからこそ多種の支援者で連携し、タッグをくんで、多面的な視点での支援が大切なんだと改めて思いました。ありがとうございました。
- ・今後とも宜しく願い致します。
  - ・40代以上になると介護保険に該当する場合がでてきます。障がい分野だけでなく、介護保険等の連携も大切になってくると思います。
  - ・当事者の体験を聞けると、高次脳についてのイメージがつきやすいかも。

ii) 特別な配慮を必要とする児童・生徒を支援していくための研修会

**平成 30 年度岩手県高次脳機能障害がい者支援普及事業**  
「特別な配慮を必要とする児童生徒を理解・支援していくための研修会」開催要綱

**1 目的**  
「高次脳機能障害がい」は病気からは分かりにくく本人も自覚し難いという特徴から、支援の対象として認識されにくいことばかりであり、適切な支援がなされないと自覚がなかったり、学習で十分な能力を発揮出来なかったり、不登校に陥るなど二次的な困難が現れることもあるため、出来るだけ早期から適切な支援を受けることが必要とされています。  
本研修会はこれらの障がいの特徴とその対応について理解を促るとともに、地域の支援者の方々に支援の実態について理解していただき、今後の連携を図っていくことを目的と開催します。

**2 主催**  
公益財団法人いわてリハビリテーションセンター

**3 後援**  
岩手県教育委員会 (予定)

**4 日時**  
平成 31 年 1 月 11 日 (金) 13:00~16:30

**5 会場**  
大通会館リリオ 3 階 イベントホール  
〒020-0022 盛岡市大通一丁目 11-8  
TEL: 019-623-2520 FAX: 019-623-7185

**6 対象**  
(1) 教職員及び学校・教育関係者  
(2) 病院・福祉施設職員  
(3) 相談支援事業所及び居宅介護支援事業所職員  
(4) 市町村障害福祉担当者及び保健師等

**7 日程及び内容**

時間	内 容	担 当
13:00~ 13:15	事業説明 「高次脳機能障害がい支援普及事業について」	いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援コーディネーター
13:15~ 14:15	講演 「特別支援学校における地域支援」	岩手県教育委員会 (調整中)
14:15~ 14:30	休憩	
14:30~ 16:30	講演 「小児の高次脳機能障害がいとその支援について」	盛岡市総合リハビリテーションセンター 臨床心理士 山口 加代子 氏

**8 参加費**  
研修参加費.....無料

**9 参加申込み**  
詳細の参加申込み書により、**12月28日(金)までに下記まで FAX 又は郵送にてお申し込み下さい。**  
いわてリハビリテーションセンター ( 担当: 上田、石林 )  
〒990-9999 岩手県盛岡市七ツ森 16-243 TEL: 019-692-5800 FAX: 019-692-5807

**岩手県高次脳機能障害がい者支援普及事業**  
**特別な配慮を必要とする児童生徒を  
理解・支援していくための研修会のご案内**

高次脳機能障害の多くは病気からは分かりにくく、本人も自覚していないことがあります。そのため適切な支援がされずに自覚を失い、不登校に陥ることが多いことから、出来るだけ早期から適切な支援が必要とされています。  
本研修会は高次脳機能障害の特性とその対応について理解を促るとともに、地域の支援者の方々に支援の実態について理解していただき、今後の連携を図っていくことを目的と開催します。

●開催日時●  
平成 31 年  
**1/11 (金)**  
13:00  
~16:30

●会場●  
大通会館リリオ 3 階 イベントホール  
盛岡市大通 1 丁目 11-8 TEL: 019-623-2520

●募集人数●  
100名

●受講料●  
無 料

●対 象●  
(1) 教職員及び学校・教育関係者  
(2) 病院・福祉施設職員  
(3) 相談支援事業所及び居宅介護支援事業所職員  
(4) 市町村障害がい福祉担当者及び保健師等

※申込は裏面の FAX 用紙を  
ご利用ください。

**■当日のプログラム (都合により内容を変更することがあります)**

時間	内 容	担 当
13:00~ 13:15	事業説明 「高次脳機能障害がい支援普及事業について」	いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害がい支援コーディネーター
13:15~ 14:15	講演 「特別支援学校における地域支援」	岩手県立盛岡となん支援学校 特別支援教育コーディネーター 高橋 美紀子 氏
14:15~ 14:30	休憩	
14:30~ 16:30	講演 「小児の高次脳機能障害がいとその支援について」	盛岡市総合リハビリテーションセンター 臨床心理士 山口 加代子 氏

★お問い合わせ★  
公益財団法人いわてリハビリテーションセンター  
高次脳機能障害がい担当 (上田・石林)  
〒020-0503  
岩手県盛岡市七ツ森 16-243  
TEL: 019-692-5800 FAX: 019-692-5807  
E-mail: koujinhushien-mha@irc.or.jp



開催日：平成 31 年 1 月 11 日（金）

場 所：コミュニケーションギャラリリーリリオ

参加者：64 名（スタッフ除く）

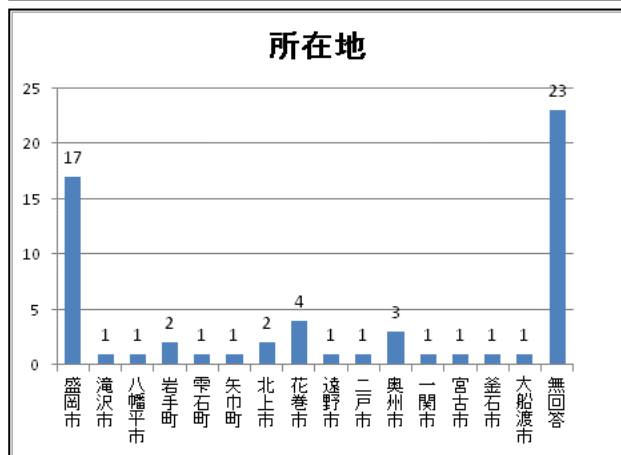
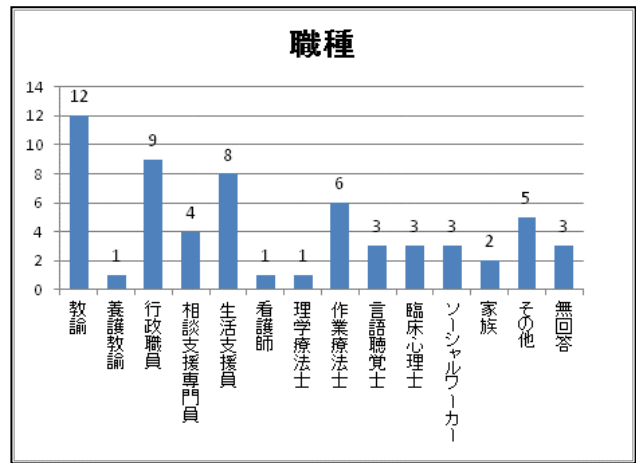
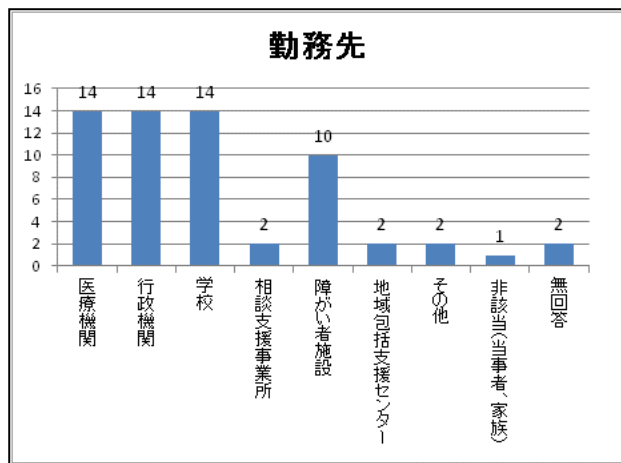
回収数：61 回収率：95%

Q1 参加者について

勤務先			
医療機関	14	行政機関	14
学校	14	学校	14
相談支援事業所	2	障がい者施設	10
その他	2	地域包括支援センター	2
		非該当(当事者、家族)	1
		無回答	2

職種			
教諭	12	養護教諭	1
行政職員	9	行政職員	9
相談支援専門員	4	生活支援員	8
看護士	1	看護士	1
理学療法士	1	作業療法士	6
言語聴覚士	3	言語聴覚士	3
臨床心理士	3	ソーシャルワーカー	3
家族	2	家族	2
その他	5	無回答	3

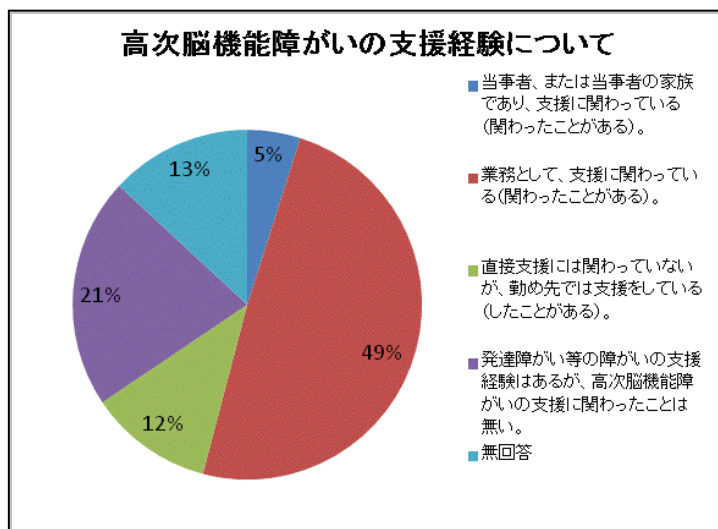
所在地			
盛岡市	17	滝沢市	1
八幡平市	1	八幡平市	1
岩手町	2	雫石町	1
矢巾町	1	矢巾町	1
北上市	2	花巻市	4
遠野市	1	遠野市	1
二戸市	1	奥州市	3
一関市	1	一関市	1
宮古市	1	釜石市	1
釜石市	1	釜石市	1
大船渡市	1	大船渡市	1
無回答	23		





## Q2 高次脳機能障がいの支援経験について

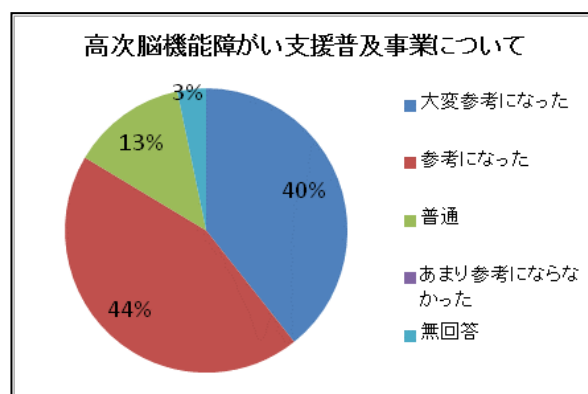
高次脳機能障がいの支援経験について	
当事者、または当事者の家族であり、支援に関わっている(関わったことがある)。	3
業務として、支援に関わっている(関わったことがある)。	30
直接支援には関わっていないが、勤め先では支援をしている(したことがある)。	7
発達障がい等の障がいの支援経験はあるが、高次脳機能障がいの支援に関わったことは無い。	13
無回答	8



## Q3 研修プログラムについて

### ①高次脳機能障がい支援普及事業について

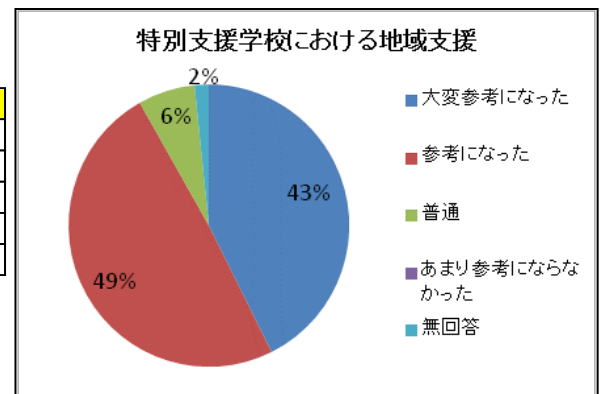
高次脳機能障がい支援普及事業について	
大変参考になった	24
参考になった	27
普通	8
あまり参考にならなかった	0
無回答	2



- ・支援普及事業について初めて知ったので、参考になりました。
- ・来年度も開催されるということで、また参加したいと思います。
- ・取り組みの状況を知れてよかった。
- ・利用者さんと関わる中で、自分が知ることができない、施設外の流れを知ることができた。
- ・岩手県の支援拠点機関だけでなく、地域にも相談窓口が設置され、連携して支援してくれることを学びました。
- ・わかりにくかった。
- ・すみません、途中から聞いたのでよくわかりません。
- ・事業の流れ、概要についてはっきり分からなかったところを整理することができました。
- ・具体的説明で分かりやすかった。

②特別支援学校における地域支援

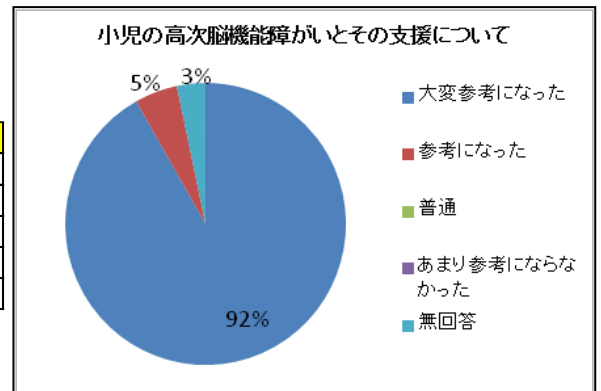
特別支援学校における地域支援	
大変参考になった	26
参考になった	30
普通	4
あまり参考にならなかった	0
無回答	1



- ・具体的な支援について学ばせて頂きました。特にS S Tの大切さについて、改めて確認することができました。
- ・支援グッズ、支援の工夫の仕方が、具体的でとても参考になりました。
- ・わかり易い説明で、自分が支援先の現場に出た時も、このように説明できると相手がわかり易いかもしいないと思うことがありました。
- ・対人援助職として、相手に敬意を払うこと、相談するというスキルをもつことなど、学んだ。
- ・日々の工夫に頭が下がる。情緒面でのフォローを参考にしていきたい。
- ・高次脳機能障がいの方に関わった事がないときき、驚きました。
- ・物や方法など、自分で変えることができるものから、他の方から助けが必要なことまで、自分が考えること以外の支援方法を知ることができた。
- ・肢体不自由の分野について学ぶことができました。
- ・特別支援学校で課題解決のためにどのように取り組んでいるか知ることができました。相談対応の際に迷うことが何度もあるのですが、今日のお話を聞いて、解決のためにやれることは多くあることに気づかされました。
- ・肢体の生徒はあまりいないのですが、小学校等で支援されてくる様子がわかりました。
- ・はじめて知ったことで、とても参考になりました。
- ・特別支援学級の具体的な関わりが分かって良かったです。
- ・S S Tについて、もう少し詳しく知りたかった。
- ・自身が経験したことをふまえた事案は参考になりました。
- ・先生の熱意がすばらしいと思いました。支援学校で、様々な相談に対応していること、支援をしていることを初めて知りました。私は療育手帳の判定をしています、ご家族から何か相談があったときには、紹介させて頂きたいと思います。
- ・先生の考え方がとてもすばらしいと思いました。
- ・具体的説明で分かりやすかった。

③小児の高次脳機能障がいとその支援について

小児の高次脳機能障がいとその支援について	
大変参考になった	56
参考になった	3
普通	0
あまり参考にならなかった	0
無回答	2

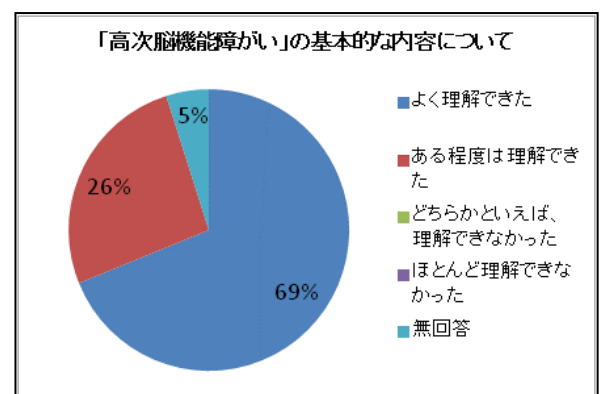


- ・すごく勉強になりました。
- ・様々な症例、障がいの詳しい内容が分かりました。自分のクラスの子の支援に役立てたいと思いました。私の息子は高校在学中事故にあい、前歯4本損失のケガを負いました（入院は一泊のみ）。その後大学にも進学していますが、以前から苦手だった片付けが更に最近は苦手になってきているように感じています。市内の大学に自宅から通っていましたが、最近は友達の家を転々としてなかなか帰宅せず、生活の様子がよくわかりません。今日の講演を伺うまでは、まあ一人立ちの助走かな、とも思っていました。もしかしたら何か片付けられない、うまくいかない等の困難さが現れてきているのか・・・など考えてしまいました。
- ・急性期の段階で、子どもよりも家族の理解や受け入れが難しく回復期へつなげない場合があります。家族対応についてもお話をききたいです。
- ・内容が高度だがわかりやすかった。
- ・小児の外傷の発症年齢ごとの支援の仕方、考え方についてあらためて詳しく聞きたいと思いました。
- ・理解する事の深さを知った。改めて学んだ。丁寧にその方を知ること、その方の表面的な言葉ではなく、思いをきくこと、教えて頂き感謝です。
- ・とても分かりやすく、興味深かった。次々と新しいデータ、情報、ありがとうございます。
- ・発達障害の生徒と接する場が多く（高校現場です）、今日のお話は非常に大きな学びであった。幼少期に転落したことのある生徒が、結果退学してしまったこと、とても悔やまれる。手立ては尽くしたが…。
- ・いつも分かりやすい説明をして頂けるので大変勉強になります。
- ・MRI や評価結果など、自分が見たことがない情報が出てきたが、それらの仕組みや根拠を説明していたので、高次脳機能障がいへの理解を深めることができた。
- ・高次脳の状態や本人の受けとりについては、子どもならではの部分はあるにしても、成人してからの支援についてと、成人してから発症した場合の自己覚知は同じだと思った。脳へのダメージの所から話して下さり、とても参考になり、理解につながり、おもしろいと思った。
- ・とてもわかりやすかったです。通常学級と支援学級（学校）の選択のところで、必ずしも通常級に戻ることが良い場合ばかりではない、というところは、慎重に考えなければならないと思いました。
- ・小児の高次脳機能障害は脳の成熟にえいきょうがあること、復学後の進路の話など大変勉強になりました。
- ・事例について、沢山紹介していただき、とても参考になりました。恥の未発達、今関わっている高次脳の子も性的問題が表面化しているので、共感できました。
- ・とても勉強になりました。現在担当している患者さんの臨床に活かしたいと思います。

- ・とても腑に落ちました。また聴講したいです。
- ・早期介入が非常に重要だと感じました。小児に限らずとても参考になる内容でした。よく「この先1人でやっていけるように」と耳にしますが、先々のことを考え、当事者を理解してサポートしてくれる場所、地域につなげていくことがとても大切だと思います。
- ・就労に対しての支援のイメージができました。
- ・重箱の隅まで、快く話してくださいました。とてもわかり易く、明日からのかかわりに生かしていきたいと思います。
- ・小児に限らず、さまざまな方の支援において役立つお話を伺うことができました。遠方からありがとうございました。
- ・具体的な事例をふまえて興味深い内容でした。
- ・社会で生きていくように関わるという視点を持つことができ、良かったです。脳の構造とその機能を把握することの大切さを痛感しました。
- ・OT, PTという言葉がよく分からなかった。初めて高次脳機能障害という障害を知った。初めてでも分かりやすい内容であった。
- ・非常にわかりやすく、大事な視点をていねいに伝えて下さり、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・事例をまじえた具体的なお話でとても勉強になりました。
- ・脳の機能にそった説明が分かりやすかったですし、具体的な事例を示していただき、理解がすすみました。また、お話をお聞きしたいです。
- ・概論からとても分かり易くお話しを聞きました。実際の事例の話も分かり易かったです。この先生のお話だけで、もっと時間をとって欲しい。
- ・先生の説明が、とても理解しやすく聞きやすい話でした。
- ・全てのお話が「なるほど!」という感じでした。
- ・具体的説明で分かりやすかった。とても良い内容でした。

#### Q4 「高次脳機能障がい」の基本的な内容への理解

「高次脳機能障がい」の基本的な内容について	
よく理解できた	42
ある程度は理解できた	16
どちらかといえば、理解できなかった	0
ほとんど理解できなかった	0
無回答	3



## Q5 今後の高次脳機能障がいに関わる研修についての要望

- ・ 具体的支援例が知りたいです。
- ・ 盛岡がよいです。
- ・ 小児期の支援にあたり、主治医や医療機関とのつながり方（精神科？脳神経外科？）と本日の講師の山口先生に教えてもらえればと思いました。
- ・ 山口先生が出された具体例、実際の姿への支援…（その後の歩みも含め）
- ・ 山口先生ありがとうございました。
- ・ 個別指導計画の事例を紹介して頂きたい。
- ・ 勉強の機会をいただき、ありがとうございます。
- ・ 山口先生のお話をまたお聞きしたいです。
- ・ 学校関係者でこの研修が必要な人は多いと思います。学校を連絡先に加えて頂ければと思います。
- ・ よろしくお願ひします。
- ・ 就労、親亡き後の生活について
- ・ 様々な事例があれば、盛り込んだ研修を聞きたい。
- ・ 多職種連携の具体例。
- ・ 就労支援について

iii) 高次脳機能障がい者支援研修会（医師・及びコメディカル対象）

**高次脳機能障がい者支援研修会（医師及びコメディカル対象）開催要綱**

- 目的  
「見えない障害」といわれる高次脳機能障がい者の支援に関わっている、あるいは関わる可能性のある医師及び医療従事者を対象として開催します。本研修会では、慶應義塾大学医学部精神・神経科学講座教授・慶應義塾大学病院副院長の三村将先生をお招きし、高次脳機能障がい者の自動車運転について講演をいただきます。高次脳機能障がいに関する知識と理解を深めていくことを目的とします。尚、本事業は岩手県の委託事業として実施するものです。
- 主催  
いわてリハビリテーションセンター
- 共催  
岩手県高次脳機能障害研究会
- 後援  
岩手県医師会
- 期日  
平成31年2月7日（木）18：30～20：30
- 会場  
ホテルニューカリーナ アイリス
- 対象  
県内の脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科、神経精神科、精神科、救急科等の医師及びコメディカル
- 日程及び内容

時間	内容	担当
17：30～	受付	
18：30～	開会挨拶	岩手医科大学脳神経外科学講座 教授 岩手医科大学附属病院 病院長 小笠原 邦明 先生
18：30～	いわてリハビリテーションセンター における運転指導への取り組み	作業療法科副院長 次久保 朗
18：30～	特別講演 「高次脳機能障害者の自動車運 転：評価と支援」	慶應義塾大学医学部精神・神経科学講座 教授 慶應義塾大学病院 副院長 三村 将 先生
20：25～	閉会挨拶	いわてリハビリテーションセンター

- 参加費  
研修参加費 -----無料
- 申込方法等  
・医師 -----事前申込不要  
・コメディカル -----事前申込必要
- ※ 会場の都合上、医師以外の医療従事者については制限をさせて頂く場合がございます。
- ※ 定員オーバーの場合のみ連絡を致します。
- 申込期限：平成31年1月31日（木）
- その他  
本研修会は岩手県高次脳機能障がい支援普及事業（医師研修）と同時開催であること  
※ 岩手県医師会生涯教育課受渡し。出席を取得予定であること
- 問い合わせ先  
いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害担当（担当：石森・上田）  
〒020-0503 岩手県平町七ツ森16-243 TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業  
**高次脳機能障がい者支援研修会（医師及びコメディカル対象）**  
ご案内

**◆特別講演◆**  
**「高次脳機能障害者の自動車運転  
：評価と支援」**

**◆講師◆**  
慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室 教授  
慶應義塾大学病院 副院長 **三村 将 先生**

**◆日時◆**  
平成31年  
**2月7日（木）**  
18：30～20：30  
     

**◆場所◆**  
**ホテルニューカリーナ  
アイリス**  
盛岡市花園二丁目3-7 TEL：019-625-2222

◎主催  
いわてリハビリテーションセンター  
◎共催  
岩手県高次脳機能障害研究会  
◎後援  
岩手県医師会  
詳しくは研修案内要綱をご覧ください

◎対象  
県内の脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科、  
神経精神科、精神科、救急科等の医師及び医療従事者  
◎参加費 無料  
◎その他  
本研修会は岩手県医師会生涯教育課受渡し。出席を  
取得予定です  
◎申込期限 **平成31年1月31日（木）迄**

<問い合わせ先> いわてリハビリテーションセンター  
高次脳機能障がい担当  
〒020-0503 岩手県平町七ツ森16-243  
TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807



高次脳機能障がい者支援研修会（医師及びコメディカル対象） アンケート結果

開催日：平成31年2月7日（木）

場 所：ホテルニューカーナ

参加者：119名（スタッフ、報告者除く）

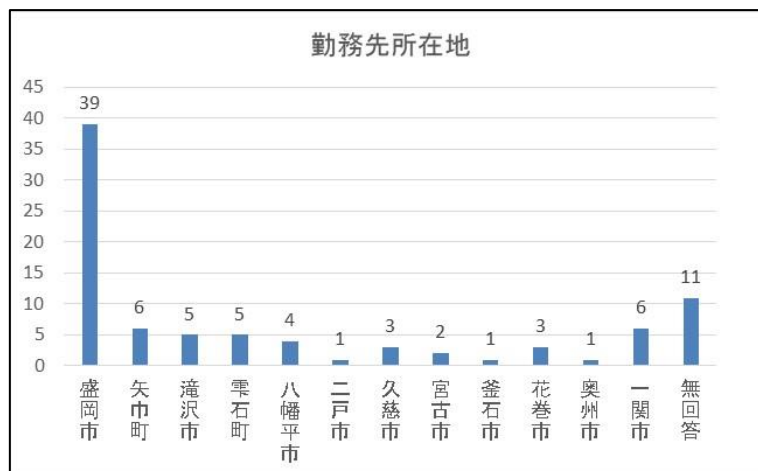
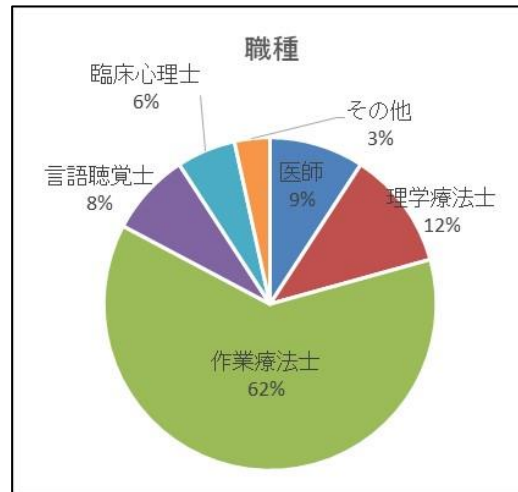
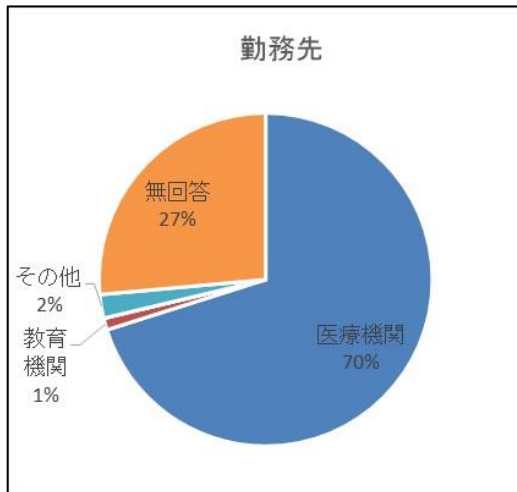
回収数：87 回収率：73%

Q1 参加者について

勤務先							
医療機関	61	教育機関	1	その他	2	無回答	23

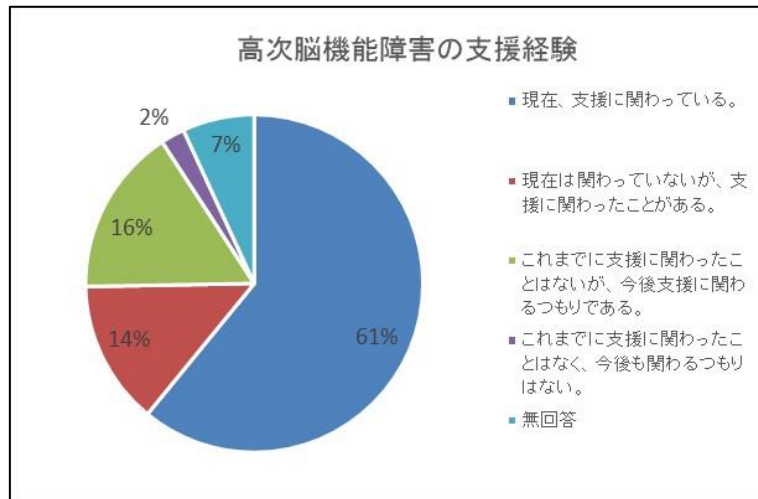
職 種							
医師	8	理学療法士	10	作業療法士	54	言語聴覚士	7
臨床心理士	5	その他	3				

勤務先所在地							
盛岡市	39	矢巾町	6	滝沢市	5	雫石町	5
八幡平市	4	二戸市	1	久慈市	3	宮古市	2
釜石市	1	花巻市	3	奥州市	1	一関市	6
無回答	11						



Q2 高次脳機能障がいへの支援経験について

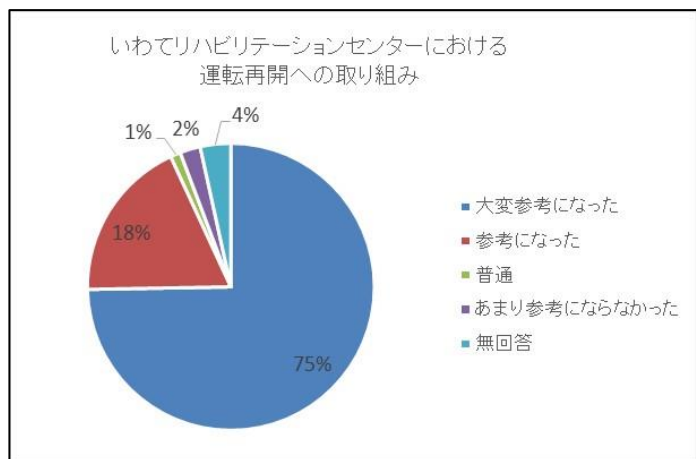
高次脳機能障がいの支援経験	
現在、支援に関わっている。	53
現在は関わっていないが、支援に関わったことがある。	12
これまでに支援に関わったことはないが、今後支援に関わるつもりである。	14
これまでに支援に関わったことはなく、今後も関わるつもりはない。	2
無回答	6



Q3 研修プログラムについて

○いわてリハビリテーションセンターにおける運転再開への取り組み

評価	
大変参考になった	65
参考になった	16
普通	1
あまり参考にならなかった	2
無回答	3



○意見・感想、もう少し詳しく聞きたかったこと等

- ・岩手県内での運転再開について、リハビリテーションがどのように介入しているのか知ることが出来た。
- ・実費コストを教えてほしかった。検査に要する時間等も知りたかった。
- ・約10年前に高次脳、身体問題での免許更新について、数か所の教習所に練習、評価を依頼した事があったが、うまくいかなかった。貴院での取り組みがどこまで広まっているか不明だが風向きは変わってきているのか？改めて、取組んでみよと思う。
- ・様々な免許再開基準が論文で出ているが、リハビリテーションセンターではどの基準が使われているのか。



- ・事例をもっと見たかったです。公安委員会、自動車教習所協会との協議、何卒宜しくお願いします。今後、県内で取り組んでいくための指針のとり決め等を OT 会でも検討していく必要があると感じました。
- ・運転再開に向けて、大変慎重に且つ丁寧に進めておられると勉強になりました。
- ・自動車運転の評価に、多くの検査が必要なこと、公安委員会、教習所との連携の重要性について知ることができました。
- ・医療機関での具体的な評価の流れが分かり、次の講演内容も頭に入りやすくなり良かった。
- ・シミュレーターなど物がそろっていることはもちろんですが、教習所などへ働きかけ、実車評価までの環境が整っていることを今回はじめて知りました。Dr やコメディカルなどが連携できているからこそ実現できているものと思います。参考にさせて頂きたいと思います。
- ・具体的な症例・グレーゾーンの方の判断について”
- ・実際の症例も出して頂き分かりやすかった。
- ・運転支援のフローチャートなども、参考になった。DS の活用方法も、当院でも同じように出来たらと思った。
- ・リハセンでの運転支援チームの詳しい体系、現在の課題点などが聞けたら嬉しかったです。(外来フォローの流れなど)
- ・センターでの取り組みがわかりやすかったです。シュミレーターの 5 段階評価の基準 (E があるとシュミレーター継続など) はどうやって決めたのか知りたかったです。
- ・県内の取り組みをもっと長く聞きたかったと思います。ぜひまた別の機会で具体的にお聞かせ頂ければと思います。
- ・実評価がとても重要であることを改めて感じた。
- ・具体的にどのような症状が運転に影響が出ていると考えられたか、聞きたかった。机上の評価と実車での評価の違いがあったか?
- ・運転再開支援のフローチャートが分かりやすかったです。ありがとうございます。患者様という表現を患者さんという表現にして頂ければ幸いです。
- ・事例として年単位だと実車評価に至るケースはいくつあるのか、知ればうれしかったです。
- ・具体的な取り組みをご紹介いただき、ありがとうございます。
- ・シミュレーターがない場合はどうしたら良いのかをもう少しききたかったです。本日はありがとうございました。
- ・実際行われている事例も紹介して頂いてとても参考になりました。ありがとうございました。シミュレーターを使った評価の重要性を感じた。外来でも対応してくれるのか、聞けるとよかった。
- ・実車評価について事例も含めて知ることが出来たので、とても勉強になりました。
- ・実車評価を行なうために教習所への協力をむすびつけるまでどの様にアクションしたのかも気になりました
- ・事例報告もあり、センターの取り組みを具体的に知ることができ勉強になりました。対象になったケースがどれくらいあり、全体として評価にどんな傾向があったのか、社会的な行動障害があるケースでの評価など詳しく知りたいです。
- ・現状を知る事ができました。
- ・評価の体系化についてとても参考になりました。他機関とやり取りをしていく中で大変だった点なども聞くことができたなら嬉しいです。
- ・様々な取り組みをされていて、純粹に本当にすごいなと思いました。ここまで仕組みを整えるのは本当に苦労されたと思います・・・。自動車運転再開の支援はいつも迷うことばかりです。勝手です

が参考にさせていただきたいです。

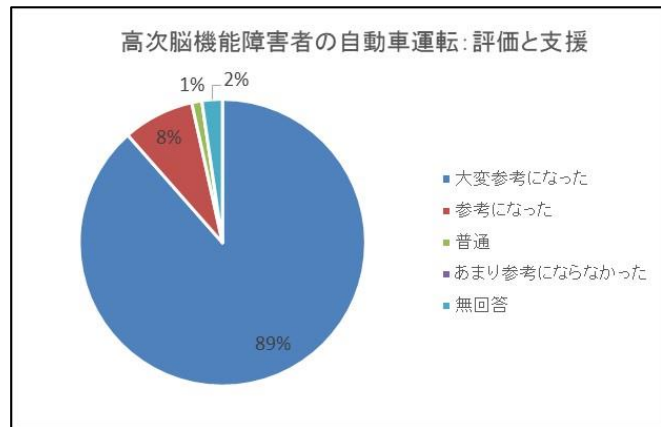
- ・貴施設の取り組みを参考に自分の職場で出来る事は何か考えていきたいと思いました。
- ・取り組み内容がとてもわかりやすかったです。中々、支援が難しい分野ではありますが、今後より大切な取り組みであると感じましたので、私の勤務先でも少しずつでも行っていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・運転の再獲得に向けた介入に関し県内で実際にシミュレーターを設置している施設は限られており、また当院も設置していないのが現状です。そういった施設で使える代用できるリハビリの内容がもしあったらおすすめ頂きたいと思いました。
- ・自動車運転再開に向けた取り組みや必要な評価等参考できた。実際に事例を通してシミュレーターや全体的な流れについて理解できた。

わかりやすかった

- ・ドライビングシミュレーターありきのものであったため、ドライビングシミュレーターがない病院にとってはあまり参考にならなかった。
- ・運転支援のフローチャートが確立しており、土台がしっかりしていると感じた。机上評価では明確な結果が出てこない為、実車評価を実践していてすばらしいと思った。
- ・リハセンターだけではなく、今後様々な病院や施設で免許センターとの関わりを増やせるような活動をしていくことも大切だと感じました。同時に、私が勤務している現場でも詳細な評価が必要であることを認識しました。
- ・運転再開へのプロセスがとても詳しく考えられており、今後関わっていくうえでもっと慎重に支援していかなければならないと感じた。
- ・事例報告の最初の職歴、運転歴がないです。「仕事はダンプ運転」とあるので、大型免許を有する方で、一般の方ではなく、元来の運転技能が高かったと考えられると思います。
- ・自動車学校の関与は大事であり、数を増してレベル低下が起こらないようにすすめていただきたい。

○高次脳機能障害者の自動車運転：評価と支援

評価	
大変参考になった	77
参考になった	7
普通	1
あまり参考にならなかった	0
無回答	2



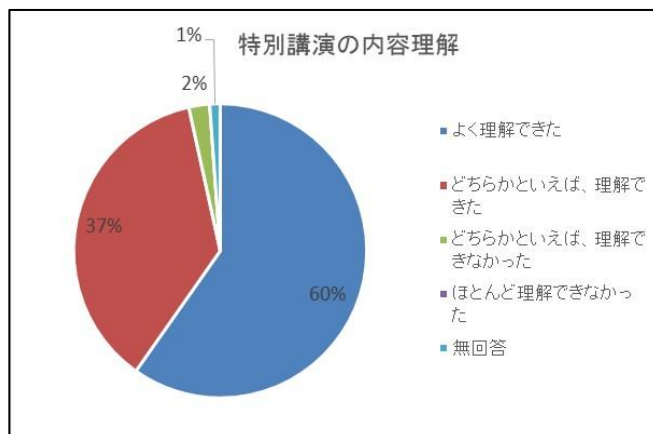
○意見・感想、もう少し詳しく聞きたかったこと等

- ・日本での運転評価や支援の動向を知ることが出来ました。また関わるうえで運転再開に関して、医療職としてどのように評価し、支援に介入していくか、その難しさを学べた。
- ・治療も聞きたかった。
- ・非常に勉強になりました。ガイドラインや検査の標準化等の体系的な環境整備、本当に宜しく願います。
- ・Dr から判断の要請があっても、どうやってはんだんしていいかわからなかった。評価のポイントがわかり、少しずつ臨床で使用していこうと思った。
- ・神経心理検査の種類や基準、相関関係などについて、詳しく知る初めての機会となりました。大変貴重なご講演をありがとうございました。
- ・評価の重視すべき項目等分かりやすかった。医療職として慎重になりすぎてしまうところがあるが、それではだめだなと改めて考えられた。
- ・今回免許、運転再開についての勉強会に初めて参加しました。今までは運転をいかにあきらめてもらうか、どれだけ危険かということのリハ、Dr と一緒に対象者に理解してもらうことがメインになってしまっていました。今後は対象者一人一人をしっかりと評価していくことが重要と思いました。
- ・公安委員会へ医療従事者は情報提供する立場であることを再確認した。神経心理学的検査の標準化が早く出ると、より患者様への説明がしやすいと思う。
- ・J-SDSA は有用であることや、OT などの部門で高次脳機能障害について詳しく精査しながら支援を進めていくことの大切さが分かった。
- ・海外と比較しての日本の運転支援（薬の事など）が遅れている事、認知症との関連など分かりやすく聞く事ができました。
- ・標準化された検査が大事だとわかりました。ぜひ、全国的に統一された基準があるといいな、と思いました。
- ・初めて知る文献や評価があり、より勉強しなければならないと思いました。またご講演頂ければと思います。
- ・担当の患者様が、薬によって免許がとれなかったという例があったので、詳しく知れてよかったです。
- ・運転の可否の参考になる評価法をたくさん聞けて、勉強になった。
- ・高次脳機能障害のある方の運転再開の現状を把握することができ、よかったです。ありがとうございました。県南におきましても運転再開に資する活動ができてくればと思いながらの聴講でした。

- ・大変、研修として分かりやすい内容ですごく勉強になりました。神経心理検査基準が出る事を楽しみにしています。
- ・海外の話もきくことができよかったです。
- ・とても内容の濃いご講演で、非常に勉強になりました。大変ありがとうございました。神経心理学的検査のテストバッテリーについて改めて考えようと思います。
- ・私の働いている病院でも、運転を希望される患者が多くいます。病院で使用している評価バッテリーは主に TMT-AB、CAT 等を使用していますが、J-SDSA による運転可否の信頼性、妥当性などが分かるものがあつたので病院でも勧められたら良いなと思います。本日はありがとうございました。
- ・実車評価をする前にも視覚認知や注意課題を行うことで自動車運転への訓練になることは、運転希望する方への関わり方の1つの指針となり、とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・実際に大切にされる評価、視点について具体的に知ることができてよかったです。
- ・最新の運転評価について沢山の情報を聞くことが出来てとても有意義な講義でした。
- ・今後運転再開の方とかかわるさいにどのようにすべきか、参考になりました。
- ・知りたかったこと（法的なこと、評価法のことなど）明確にお話いただき参考になりました。引き続き勉強していきたいと思います。
- ・具体的な検査項目等を提示されたため、明日からの臨床で活かしていきたい。学会等で情報収集しながら運転再開支援に関わっていきたい。
- ・薬物との関連や、海外との比較、各検査のオッズ比など確認する事ができ、とても良かったです。
- ・今もまさになやんでいる症例がいて、一人でぐるぐる考えていたところお話をきけて希望が持てましたし、プランを考えることが出来ました。
- ・自動車運転に必要な能力をくわしく知る事ができました。机上検査でもできる事、分かる事があるのでそこから支援していければと思いました。
- ・とても貴重な話を聞くことが出来ました。ありがとうございました。
- ・専門的な部分もあつたが、参考になることが多かった。
- ・様々な評価方法を示していただけただけのため、参考にしたいと考えます。
- ・運転で「注意」「空間認知」の2つがポイントになること、机上評価で最重要視すべき評価内容を聞けて、今後の評価において参考になりました。
- ・最近のリハビリの場面でも、脳挫傷や歳の若い人に関わる機会が多くなってきました。その中で自転車、自動車運転が課題となるケースが多いです。この研修をふまえて、注意・視空間認知・視野などに対して運動療法、徒手療法を行い、今後介入を続けてみたいと感じました。
- ・高次脳機能障害はもちろんのことながら、認知症患者が増え続けている現在において運転の可否を決定する標準的評価は必須であり、確立され活用できるように自分自身も学習を続けていくべきであると思った。
- ・新しい知見が分かってとても参考になりました。
- ・第3者による運転評価システムは良いアイデアと思った。

Q4 特別講演「高次脳機能障害者の自動車運転：評価と支援」の、内容は理解できましたか。

評価	
よく理解できた	52
どちらかといえば、理解できた	32
どちらかといえば、理解できなかった	2
ほとんど理解できなかった	0
無回答	1



Q5 今後の高次脳機能障がいに関わる研修会への要望（テーマ、内容、講師、場所、開催時期等）

- ・盛岡以外での開催
- ・来年も同様の内容を希望します。
- ・高次脳機能障害に対する訓練
- ・脱抑制、病識低下患者への対応・訓練
- ・記憶障害に対する日常生活における具体的アプローチ。前頭葉症状に対するアプローチ。
- ・独居生活、復職について
- ・各県での取り組み、藤田先生の研修会を行なって頂きたいと思います。
- ・運転に関しては他県の特設チームの取り組みなど、就労支援のリハでの取り組みなど、求められる事
- ・”場所：キャラホール  
時間：18：30～  
テーマ：失行・失認について、評価・介入方法”
- ・失行・失認・注意障害におけるADL拡大方法
- ・高次脳機能障害の方に対する復職支援についての講義を聴かせて頂きたいです。
- ・普段、認知症の方々に関わっています。高次脳機能障がいから学ぶことがたくさんあると感じています。またよろしくお願いします。
- ・運転に関して医師、自動車学校、公安委員会、コメディカルと一緒に受けられる研修会を開催してほしい。
- ・出来れば土・日の日中をお願いします。
- ・今日のような研修会を企画して頂ければ幸いです。本日はありがとうございました。
- ・平日の時間（夜ではなし）に出来ないか。道路環境の良い時期。
- ・”高次脳機能障害への関わり方  
高次脳機能障害の方が感じる社会活動（日常生活する上で、仕事やIADLなど）での困難な点。これに対してリハビリ、医療スタッフとしての関わりや治療・介入方法など”
- ・復職支援を病院および産業保健スタッフで行った事例がありましたら教えて頂きたいです。

iv) 行動に障害のある方を理解・支援していくための研修会

**平成30年度岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業  
「行動に障害のある方を理解・支援していくための研修会」開催要綱**

1 目的  
高次脳機能障害や発達障害を持つ方の中には感情や思考のコントロールがうまく出来なかったり、意欲や発動性が低下したり、集中できず不安定な行動を繰り返す等の行動障害がみられるケースが少なくありません。行動障害がみられる場合は他者とのコミュニケーションで困難になることが多く、事業所でも対応に苦慮しているのが現状ですが、適切な支援や環境調整、医療機関等の関係機関と連携を図ることで、社会復帰を果たしたり、安定した生活が送れるようになるなど支援の効果性も報告されています。  
本研修会はこれらの行動障害の特性とその対応について理解を深めるとともに、地域の支援者の方々に支援の実践について理解していただき、今後の支援の質の向上を図っていただくことを目的と開催します。

2 主催  
いわてリハビリテーションセンター

3 日時  
平成31年3月9日(土) 9:30~15:30

4 会場  
岩手県自治会館 第1会議室 〒020-8510 盛岡市山王町4-1 TEL: 019-622-6171

5 対象  
福祉施設・相談支援事業所職員及び医療関係職員  
※参加申し込みが多数の場合は、高次脳機能障害者の支援経験がある方を優先して調整致します。

6 日程及び内容

時間	内容	担 当
9:30~9:35	開会・挨拶	
9:35~11:05	講義 「行動障害の概要と支援のあり方」 ～高次脳機能障害と発達障害を中心に～	国立障害者リハビリテーションセンター 高次脳機能障害情報・支援センター センター長 深津 純子 氏
11:05~11:15	休憩	
11:15~12:15	講義 「行動障害のある方の社会復帰支援について」 ～高次脳機能障害と発達障害の事例から～	国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援総合情報支援センター (福祉) 第一自立訓練施設が設けられた 精神障害者自立支援センター 和田 愛純美 氏
12:15~13:15	昼食・休憩	
13:15~15:15	グループワーク 「高次脳機能障害の事例」	いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援コーディネーター
15:15~15:30	質疑応答・閉会	

7 参加費：無料

8 参加申込み  
別紙の申込書は事により、**平成31年3月1日(金)まで**に下記までFAX又は電話にてお申し込み下さい。  
いわてリハビリテーションセンター(担当：上田・石林)  
〒020-0508 岩手県岩手市七ツ森 16-243 TEL: 019-692-5800 FAX: 019-692-5807

**岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業  
「行動に障害のある方を  
理解・支援していくための研修会」**

高次脳機能障害や発達障害を持つ方の中には感情や思考のコントロールがうまく出来なかったり、意欲や発動性が低下したり、集中できず不安定な行動を繰り返す等の行動障害がみられるケースが少なくありません。  
本研修会ではこれらの行動障害の特性とその対応について理解を深めるとともに、地域の支援者の方々に支援の実践について理解していただき、今後の支援の質の向上を図っていただくことを目的と開催します。

平成31年

**3/9 (土)**

9:30~15:30

**会 場**  
岩手県自治会館 第1会議室  
盛岡市山王町4-1 Tel 019-622-6171

**定 員**  
100名

**費 料**  
無料

**対 象**  
福祉施設・相談支援事業所職員  
医療関係職員  
※申込多数の場合は、高次脳機能障害者の支援経験がある方を優先して調整致します。申込の受付ができない場合はのみご連絡致します。

■当日のプログラム～都合により変更になる場合がございます～

◆講義1◆  
「行動障害の概要と支援のあり方」  
～高次脳機能障害と発達障害を中心に～

◆講義2◆  
「行動障害のある方の社会復帰支援について」  
～高次脳機能障害と発達障害の事例から～

【講師】  
国立障害者リハビリテーションセンター  
高次脳機能障害情報・支援センター  
センター長 深津 純子 氏

【講師】  
国立障害者リハビリテーションセンター  
自立支援総合情報支援センター  
精神障害者自立支援センター  
和田 愛純美 氏

午後は高次脳機能障害の方の事例を用いたグループワークを行います。

●お問い合わせ●  
〒020-0508 岩手県岩手市七ツ森 16-243  
公益財団法人いわてリハビリテーションセンター  
高次脳機能障がい担当(上田・石林)  
TEL: 019-692-5800  
FAX: 019-692-5807  
E-mail: kouinou-shien-reha@rc.or.jp

※お申込は裏面の申込用紙をご利用ください。  
電話、メールでも受け付け致します。



行動に障害のある方を理解・支援していくための研修会 アンケート結果

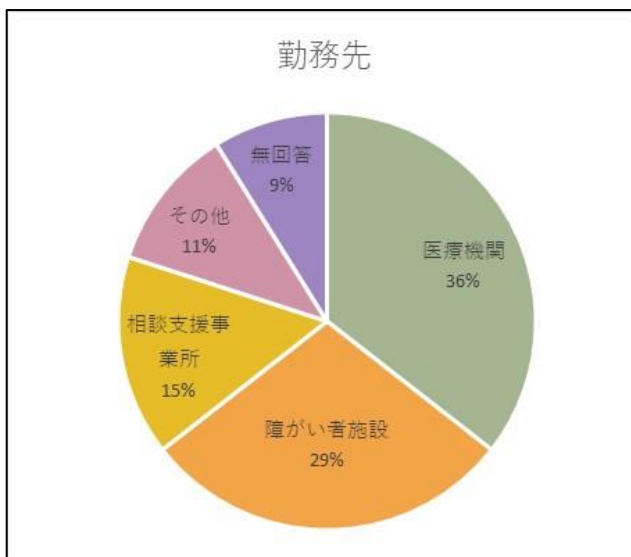
開催日：平成 31 年 3 月 9 日（土）

場 所：岩手県自治会館

参加者：50 名 回収数：45 回収率：90%

Q1 回答者について

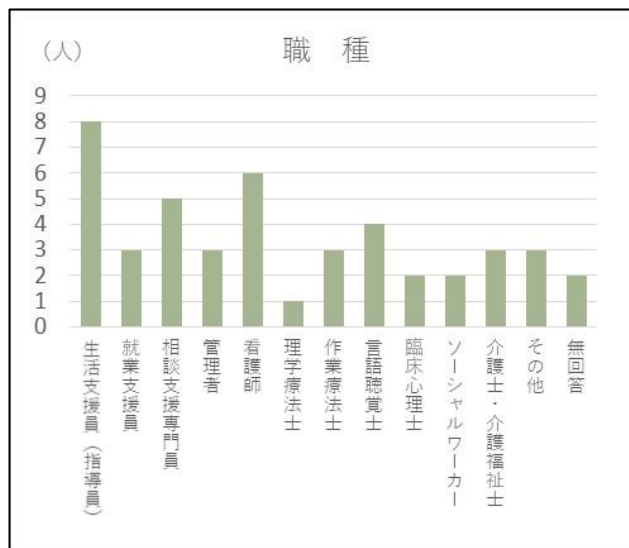
勤務先	人数	%
医療機関	16	36
障がい者施設	13	29
相談支援事業所	7	16
その他	5	11
無回答	4	9
計	45	100



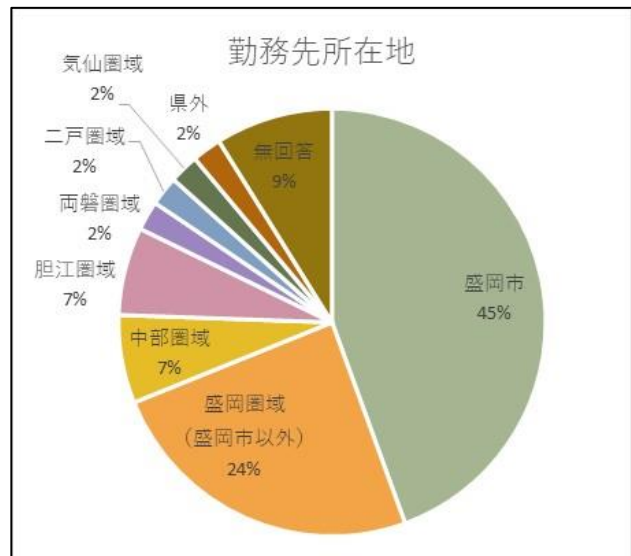
その他の内訳

- ・介護事業所 ・サービス付き高齢者向け住宅
- ・デイケア ・相談機関
- ・障がい者就業・生活支援センター

職種	人数	%
生活支援員（指導員）	8	18
就業支援員	3	7
相談支援専門員	5	11
管理者	3	7
看護師	6	13
理学療法士	1	2
作業療法士	3	7
言語聴覚士	4	9
臨床心理士	2	4
ソーシャルワーカー	2	4
介護士・介護福祉士	3	7
その他	3	7
無回答	2	4
計	45	100



勤務先市町村	人数	%
盛岡市	20	44
盛岡圏域（盛岡市以外）	11	24
中部圏域	3	7
胆江圏域	3	7
両磐圏域	1	2
二戸圏域	1	2
気仙圏域	1	2
県外	1	2
無回答	4	9
計	45	100

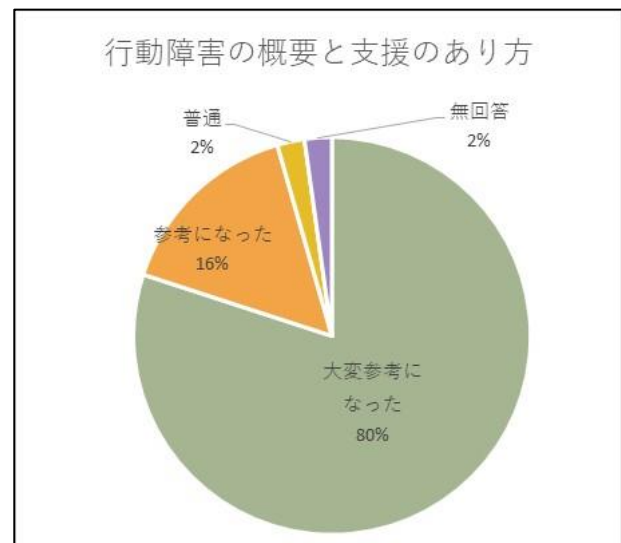


## Q2 研修プログラムについて

### (1) 「行動障害の概要と支援のあり方」～高次脳機能障害と発達障害を中心に～

講師：深津玲子先生

評価	人数	%
大変参考になった	36	80
参考になった	7	16
普通	1	2
あまり参考にならなかった	0	0
無回答	1	2
計	45	100



#### 〈意見・感想・より詳しく聞きたかったこと等〉

- ・対応のポイントはとても参考になりました。
- ・御本人が困った状況にならなければ、自覚が芽生えず、病院より社会に出ないと症状があきらかにやりにくいことに非常に納得がいった。病院のリハでは御本人に自覚を促すより、1つ1つの作業や課題にとりくんで、その時の問題に対処した方がよいのか悩む。自己認識の図は参考になった。
- ・とても参考になる研修でした。後ほど、もっと読み返してみたいと思います。
- ・非常にわかりやすかったです。質問への回答は非常に丁寧で、理解が深まるが多かったです。
- ・高次脳機能障害や発達障害の違いや重なる部分などを学ぶことができた。
- ・例示をしていただき、障害、対応についてよく理解できました。
- ・知的には遅れがない自閉症スペクトラム症の方の支援は、家族も学校も対応に苦慮されております。私はご本人に寄りそっていきます。

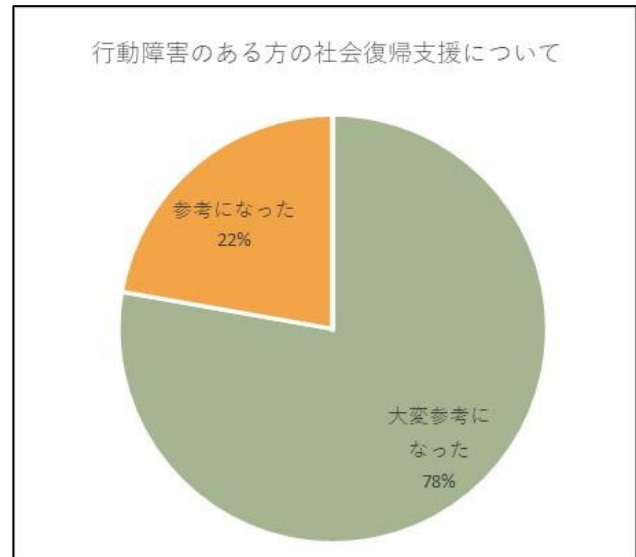


- ・私どもの職場は長期入退院をくり返す方や他事業所でトラブルが多く退所後に来る方が多く、様々な方が来る中でのヒントが盛たくさんでした。
- ・高次脳機能障害と発達障害の違い、アプローチ方法についてよく理解できました。
- ・高次脳機能障害と発達障害を同時に学べてよかった。
- ・支援の部分での“伝える”“理解して頂く”伝え方を考え直す。言葉を替えて見るのきっかけになります。施設にて話し合いたいと思います。
- ・グラフが見づらかった（字が小さかった）。高次脳機能障害と発達障害の違いがよくわかった。
- ・行動障害に関し、分類や法律、具体的な支援例や、今後知りたいことが浮かんだ際の問い合わせ先等幅広く知ることができ、非常に有意義な時間となりました。
- ・発達障害は普段関わりのない所であったので、具体的に知ることができてよかった。
- ・発達障害、高次脳機能障害について理解できた。
- ・高次脳機能障害と発達障害を並べて考えたことがなかったので、新しい気づきをたくさん頂けました。
- ・発達障害と高次脳機能障害の原因など分かった。実際に訓練中に起きた事などは働いていてあることなので、理解しやすかった。発達障害の方は「どうすればいいのかわからない」という事がわかった。
- ・高次脳機能障害と発達障害の対比で説明して下さることで、より違った理解を深めることができた。
- ・「共通点、相違点」についての整理ができました。ありがとうございます。
- ・現在実践していることが大きく外れていないことが分かって良かった。
- ・DSM-V、ICD-10についても説明して頂き、とてもわかりやすかったです。
- ・とてもわかりやすく、勉強になりました。
- ・発達障がいも多く支援してきているが高次脳機能障がいについてちがいを理解することができた。とても分かりやすく説明して頂けて良かったです。
- ・発達障害と高次脳機能障害について、とてもわかりやすく教えていただき、感謝しています。
- ・高次脳機能障害や発達障害の特性や対応のポイントを知ることができて良かった。
- ・大変参考になりました。これから日々の支援に活かしていきます。
- ・自閉症の方のわく組の変化や誤解など、うなずくことが多く、ばくぜんにとらえていたこともあったりしていたところが、なるほどと思えることもあり、すごくありがたい研修だと思いました。4コママンガもよくありがちなことで、とてもわかりやすかったです。ありがとうございました。

(2) 「行動障害のある方の社会復帰支援について」～高次脳機能障害と発達障害の事例から～

講師：和田愛祐美先生

評価	人数	%
大変参考になった	35	78
参考になった	10	22
普通	0	0
あまり参考にならなかった	0	0
無回答	0	0
計	45	100



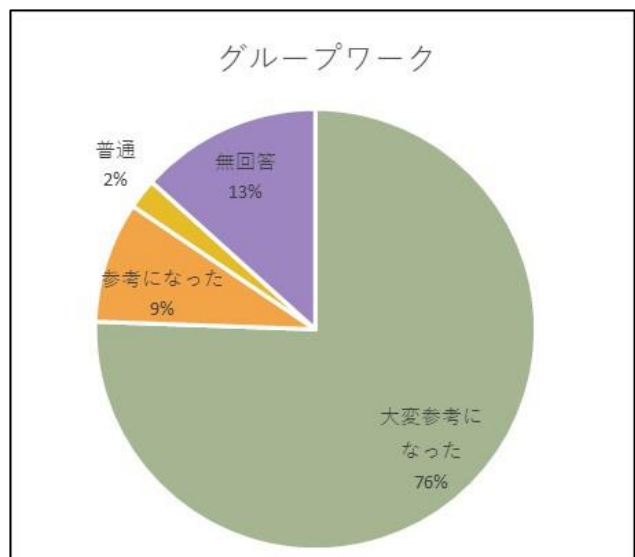
〈意見・感想・より詳しく聞きたかったこと等〉

- ・事例での支援方法を学ぶことができ、とても参考になりました。
- ・発達障害の事例をききたかったです。スライドの中で身だしなみチェック票や進行表など資料のなかにほしかったです。
- ・事例Cをもう少し詳しくお聞きしたかった。
- ・支援のポイントが分かり、今後につなげていけそうです。時間が短く、後半の内容がかけあしだったのが残念でした。
- ・具体的なディスカッションのお話をきけなくて残念でした。
- ・事例をふまえた説明があり、理解が深まった。
- ・支援内容を構造的に理解できました。
- ・事例を沢山伺うことが出来て、とても参考になります。大切なのはアセスメントですね。→御本人に寄りそった支援につながります。
- ・実際に行われている訓練の内容を聞いてよかった。社会復帰支援が必要な高次脳機能障害の方へのリハビリの参考にしていきたいです。
- ・時間が足りなく聞きたいところが聞けず残念でした。
- ・事例を交えたアセスメントと支援体制について大変参考になりました。もっと詳しく説明いただいても良かったです（+30分）。
- ・自己認識（気づき）のところを詳しく聞きたかった。
- ・事例があり、どのように支援していくのかがわかった。また、利用者様の性格、職業等でアセスメントをとり、支援していくことが大切だとわかった。→役に立つと思う。（今後として）問題となったら、なぜなのかを考え（1こ前に）、皆と一緒に支援していくことも理解した。
- ・実際の支援の流れを図式化して頂き、分かりやすかったです。
- ・事例を通して支援のありかたについて知ることができた。
- ・具体的な事例を揚げて説明があり、参考になった。
- ・発達障害の事例も聞きたかった。
- ・事例をわかりやすく伝えて頂いて、とても理解しやすかったです。
- ・実際の事例について詳しい説明であったため、分かりやすかった。

- ・機能的なアセスメントとそれ以外の面のアセスメントについて関連づけて考える方法がわかった。
- ・「支援のリフォーム」について、だいぶ昔の利用者に対しても支援されているとのことで、そのような対応がどのような体制でなされているのか、詳しく聞いてみたかったです。
- ・生活訓練の具体的内容を初めて知った。
- ・事例も交えながらわかりやすかったです。
- ・メニュー（活動）などのスライドがなく残念でした。事例が多くよかったです。
- ・実際の事例をもとにすることで支援によってどうかわっていくかをイメージすることができた。
- ・日常の業務でも参考になる事も多くとても良かったです。
- ・具体例がわかりやすく、とても参考になった。
- ・支援の流れを知ることができて良かった。支援期間だけでなく、支援につながるまでの流れ（HPからの紹介、家族からの相談）、卒業後のフォロー方法についても知りたいと思った。支援機関につながり、支援終了後のフォローが大変と感じているので…。
- ・その人に合わせた手順書やマニュアル、訓練の段階から明確にすることは、なかなかできていないところだと振り返りました。リアルフィードバック、その時に、大事なことですね。忙しいとつい少し時間をおいてしまうことが多いかなと感じます。ありがとうございました。

### (3) グループワーク「高次脳機能障害の事例」

評価	人数	%
大変参考になった	34	76
参考になった	4	9
普通	1	2
あまり参考にならなかった	0	0
無回答	6	13
計	45	100



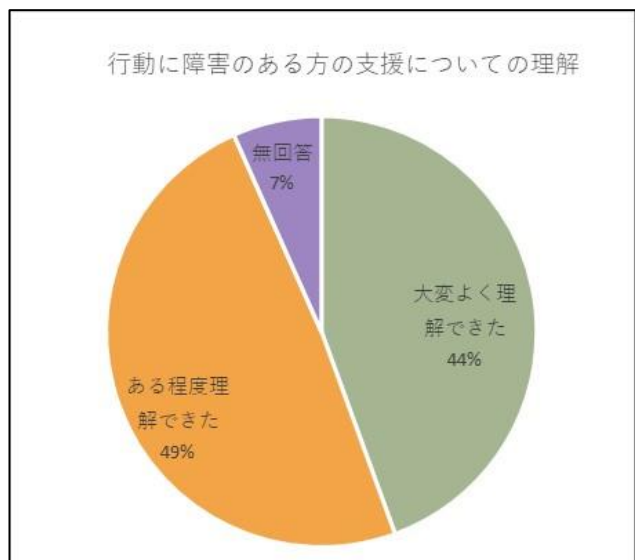
#### 〈 意見・感想・より詳しく聞きたかったこと等 〉

- ・難しかったです、参考になりました。
- ・各々職種も違った事が良かったと思います。具体的な支援へも様々出されて勉強になりました。多職種、他領域の方々の話がきけて、とても勉強になりました。今後につながる知識を得ることができました。
- ・「高次脳機能障害」→初めてきく言葉でしたが、皆さんの意見をきいて、とても参考になりました。
- ・様々な種類の方と話し合いながら計画をつくったが、捉え方など参考となった。
- ・他職種から学ぶことが多かったです。
- ・何回やっても勉強になります。
- ・地域の事業所で働く方と GW することで、病院から地域へのつながり、具体的な支援方法について知ることができた。
- ・本人がとり残された意見が多く、少し残念でした。

- ・チーム支援の必要さを再認識しました。職種異なる専門の方の意見が聞けて参考になりました。
- ・他職種との事例検討を行って、どのように支援していくのか考えていくことがわかった。
- ・他職種の方がどのような考えをもっているのか、参考になりました。
- ・課題や強みをだしていくと支援の方法を考えていくことができると感じた。また様々な職種の方の意見をきけて勉強になった。
- ・さまざまな職種の方の話が参考になった。(自分は直接支援に関わることがない)
- ・色々な意見を聞くことができてベンキョウになりました。
- ・他の職種の方々と共通の事例の話ができてとても楽しかったです。
- ・事例に対して、他施設の方たち、他職種で課題は何か、解決に向けて、どこが支援していくのか検討することができて良かった。
- ・他職種の方と色々な意見を交わすのが良い刺激になった。
- ・障害支援に熱意を持っている方が多くいることに安心しました。
- ・グループワークまたしたいです。
- ・むずかしかったです。
- ・難しい内容でしたが、色々勉強になりました。
- ・様々な職種の人たちと話しあえたので良かった。
- ・他職種の方のお話が聞けてとても良かったです。
- ・すごく勉強になりました。医療、他、他職種の方々と話し、GWをすることで気づきもたくさんあります。本当にありがとうございました。

### Q3 「行動に障害のある方」の支援についての理解

評価	人数	%
大変よく理解できた	20	44
ある程度理解できた	22	49
どちらかといえば理解できなかった	0	0
ほとんど理解できなかった	0	0
無回答	3	7
計	45	100



### Q4 来年度以降の研修会への要望

- ・具体的な支援の内容を伺いたい
- ・病院内での訓練の具体例、退院後のリハの具体例、復職例を知りたい。特に注意障害の訓練、評価。
- ・精神疾患をもつPtについてもあるといい
- ・内容、場所ともにとっても良かったです。

- ・事例研究の発表など、実践された方の話も聞いてみたい。
- ・認知行動療法の手法を学びたい。
- ・介護として、どうかかわっていけば良いのか、具体的な支援方法、コミュニケーション。(高次脳機能障害の人に伝わる方法)
- ・時期は別の時期が良い。(年度末でなく)
- ・岩手県内の高次脳機能障害患者の支援事例
- ・年内の時期に(年度末は予定がぎっしりある)
- ・駐車場がたくさんあり、アクセスも良く最高でした。こんな場所があるのを知らなかったのが良かったです。
- ・ぜひ参加したいです。発達障がいも関連して、今回のようなかたちはありがたいです。
- ・青木重陽先生の講演を聞いてみたいと思います。(神経心理リハビリテーションの事を聞いてみたいです)

## Q5 その他、感想・意見

- ・勉強になりました。どうもありがとうございました。
- ・ありがとうございました。
- ・講義のときは、テーブルはスライド側を前にしてほしかった。昼食後グループワーク体制になった方が講義内容をより理解できたと思います。
- ・グループワークはたっぷり時間がとってあり良かった。専門外のことはわからないので他職種の方と話せて良かった。実際の現場での話も聞いてみたかった。
- ・今後の計画相談に役立てていきたい。
- ・色々な職種の方とお話できて、楽しかったです。
- ・テーブルがせまかったです。
- ・高次脳機能障害の利用者様はいますが、今まで支援方法がわかりませんでした。違いを知り、少しだけ支援方法が理解できたと思います。
- ・勉強不足で難しいこと、部分もあつたけれど、これから深く学んでいきたいと思いました。
- ・他職種との交流が出来、意見を聞くことが出来、今後の自身の参考にしたいと思っております。かんしゃです。本日はありがとうございました。
- ・他県からの参加にもかかわらず、温かく受け入れてくださりありがとうございました。大変勉強になりました。
- ・とても楽しかったです。なかなか他職種で話し合うことがない為、勉強になりました。スタッフの皆様運営お疲れ様です。
- ・又このお二人の講師でのご講演、研修を企画して下さい。
- ・次回あればまた事業所の他の職員にもすすめたいです。
- ・今後も参加したいです。まだまだ勉強です。今後ともよろしくお願いします。
- ・非常に勉強になったと同時に周囲でもたくさんの支援者の方々がいる事に改めて気づかされました。ありがとうございました。

## 5 当事者交流イベント

高次脳機能障がい者支援普及事業  
いわてコウジ村フェスティバル  
**じゃじゃじゃ交流会 2018**

**日時** 平成30年9月17日（月・祝日）  
11:00～15:00（10:00～受付開始）  
※自己紹介のためのカードをご記入頂きますので、時間に余裕を持ってお越しください。

**場所** ふれあいランド岩手 体育館  
岩手県盛岡市三本柳 8 地割 1-3  
TEL 019-637-1000  
\*会場までは各自でお越しください  
\*当日は動きやすい服装で、**上着2着**をご持参ください

**内容** ・自己紹介ゲーム  
・昼食（お弁当が出ます）  
・卓球バレー

**参加費** 600円（お弁当代含）  
初めての方も一緒に楽しみましょう！  
参加賞も出るかも！！？

**定員** 60名

**参加対象** 高次脳機能障がい者及び家族  
医療、福祉、行政関係者等高次脳機能障がいの支援者、県民

主催 いわてリハビリテーションセンター、いわて脳外傷友の会イーハーツ  
お申込・お問合せ TEL:019-692-5800 FAX:019-692-5807  
E-mail: koujinou-shien-reha@ire.or.jp

**締め切り、平成30年9月3日(月)** 高次脳機能障がい交流会担当(石藤・上田)  
キャンセルの際は9/11までにご連絡ください。それ以降の場合は参加費を返金する場合がございます。

申込用紙は裏面へ



平成30年度当事者企画イベント  
 じゃじゃじゃ交流会2018 アンケート結果

日時：平成30年9月17日(月・祝)

11：00～15：00

場所：ふれあいランド岩手

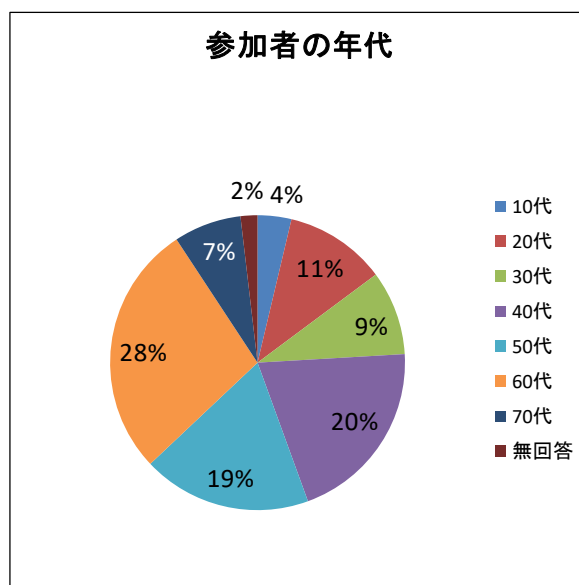
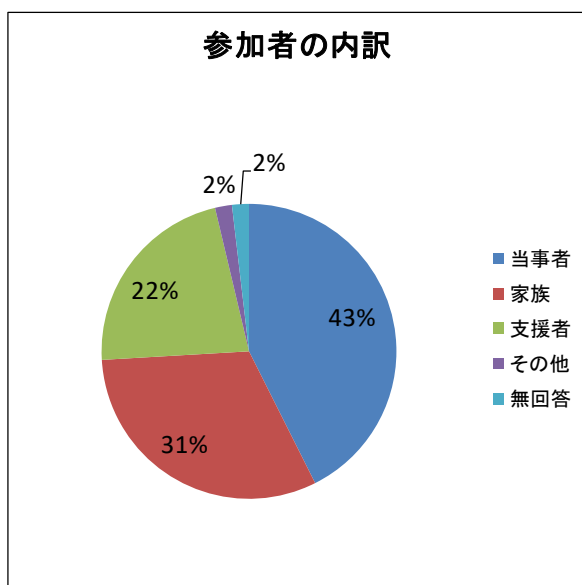
参加者：80名（職員除く） 回収数：54 回収率：68%

○参加者の内訳(単位：人)

当事者	家族	支援者	その他	無回答
23	17	12	1	1

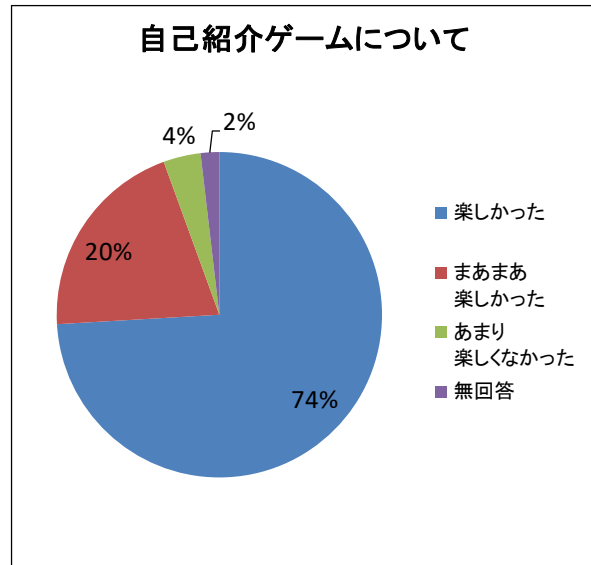
○参加者の年代(単位：人)

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
2	6	5	11	10	15	4	1



○「自己紹介ゲーム」について(単位：人)

楽しかった	まあまあ楽しかった	あまり楽しかった	無回答
40	11	2	1



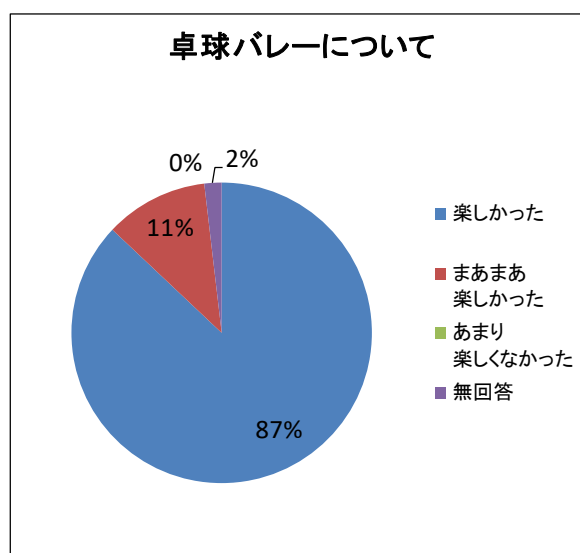
【感想・印象に残った場面・改善点など】

- ・グループの人数もほどよく、話しやすかったです。
- ・ふだん会えない人と交流出来て、良かったです。
- ・交通事故による障害者と同じ班になりたい。
- ・体と心がほぐれた
- ・リーダーがうまく進行してくれた！
- ・自まん話してみたいになってしまうかもしれないが、とにかく話しを聞いてもらったこと。なぜこうなったとか、わからなくても、今の自分を見てもらったこと、こうやってどこかでも応援してもらっている事が事実だったこと、わがままきまましあわせ病だったことがはっきりわかった事。
- ・もっと具体的な立場(本人・当事者)であるか、どんな事を困っているかについて時間をとった方が良い
- ・他グループとの交流がおもしろかった
- ・もっと全体的に交流したいと思いました。
- ・長い時間でしたが短く思いました。楽しかったです。
- ・AKBのうたをしてよかったです。
- ・援護の方がとてもすばらしくて助かりました。時間があつという間に過ぎました。
- ・色々な方と知り合えてよかった。
- ・自分の立場をどの程度まで話して良いか分からず、最初の自己紹介が簡潔すぎるものになってしまいました。
- ・短時間で様々な事が聞く事ができ、話すきっかけ作りになった。
- ・自己紹介はすごくすごく楽しかったです。一人一人の話を聞く事で、本人の気持ちを出してあげたいと思った。
- ・いろんな人と自己紹介出来て楽しかったです。
- ・質問をグループでどンドンしていったところ。より共通点を見つけられる機会になった。



○「卓球バレー」について(単位：人)

楽しかった	まあまあ楽しかった	あまり楽しくなかった	無回答
47	6	0	1

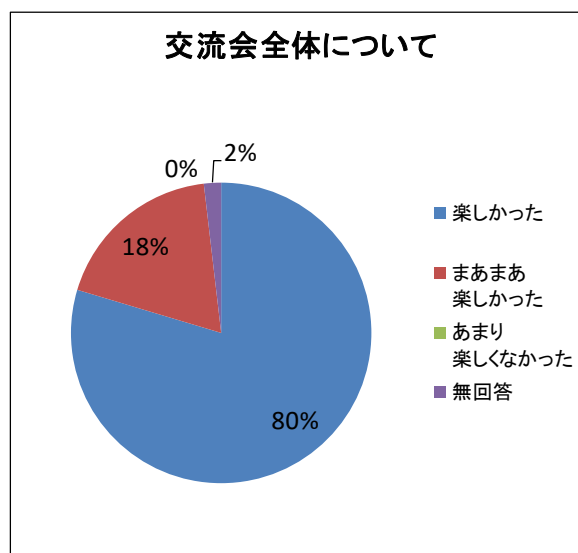


【感想・印象に残った場面・改善点など】

- ・身体を動かし笑顔で勝負。とてもおもしろかったです。日頃のつかれもとれ又楽しみたいと思います。
- ・すごもりあがり、たのしかった
- ・楽しい
- ・心と体がほぐれた
- ・ゲームを長くしてほしい
- ・とにかく他の人と交流して、話しが出来、聞ける事、こういう場がある事に意味がある。価値がある。企画運営大変でしょうが、これからもよろしく願います。強くうっただけでない、アシストがあるから主役となれる。だから自分達はめぐまれている。母親にかんしゃしないと、苦勞ばかりかけてたよ！なにもしてやれなかった。
- ・白熱するところがおもしろかった。またやってほしい。
- ・県外の方にも出会えてよかったです。
- ・楽し過ぎました。同じメンバーで会える日を楽しみにしています。
- ・こんなに楽しいスポーツがあったのかと再確認しました。
- ・みんなで力を合わせて3勝しました。感激です。
- ・皆さん、日ごろのうっぷんをはらしたみたいで楽しそうでした。よかったです。
- ・ルールが難しく、かなり高次脳機能を使いました・・・。
- ・ボールの特徴等、障がいを感じず皆わかりやすく参加する事ができるスポーツでたのしかった。
- ・卓球バレーは楽しかったです。
- ・勝敗に関係無く、声をかけ合ってプレーが出来て楽しかったです。
- ・勝ち負けでなく、みんなで楽しんでた印象だった。拍手し合っていたことも印象的だった。

○「交流会全体」について(単位：人)

楽しかった	まあまあ楽しかった	あまり楽しくなかった	無回答
43	10	0	1



【感想・次回の要望など】

- ・いつもお世話様です。今回も沢山の方々と交流で、楽しませて頂きました。
- ・みんなでの合唱、よかったです。いろいろありがとうございました。
- ・皆に会えてとてもよかったです。同じような仲間とあえて有意義な1日でした。又来年もやってほしいです。元気に前を向きます。イワテリハビリセンターの皆様大変お世話になりました。お陰様で今幸せです。今後共よろしくお願い致します。
- ・手話が理解できなかった。
- ・またぜひいろいろな場所でたのしみたい
- ・卓球バレーをはじめてやりました。みんなエキサイトしてきて、楽しんでできたと思います。
- ・スポーツと食事作りを取り入れる
- ・この様におさそいがないと遠出も出来ないなか、自分と同じ様に頑張っている人がいる。支えられている事(ささえている人がいる)。ささいなスポーツでも、こうしてやってもらえている、感謝です。もう少しトレーニングして、力つけて、町内会の運動会に顔を出せるようになればと思います。企画、スタッフ大変ご苦労様です。今後もよろしく願います。知る事、みる事、体験すること、教えられること、これを学べる事は今の自分にとってはとっても大変な事。皆をみていると、ゆうきをもらえた。自分はどんなにめぐまれているのだろう。ありがとうございます。ほんとうにありがとうございます。
- ・よい女性の人がついてありがとう
- ・来年は手を動かすコーナーもほしい(前にやったパフェづくりのように)。大船渡に限らず、盛岡を離れての開催も一つの案と思う。
- ・とても為になる話も聞けたし再び交流会等ありましたら参加したいです。
- ・また来年も集まれば良いと思います。関係者のみなさんもお疲れ様です。
- ・毎年続けてほしい。たまに(1年振り)におあいするととても変っている人もいてうれしかった。
- ・連休のあいまにできてよかったです。
- ・最高の日でした。
- ・来年度の交流会を楽しみにしています。
- ・みなさん明るいのでビックリ!
- ・知り合いとの情報交換が出来て良かったです。
- ・名札で支援者／当事者／家族の別がわかると話しやすいと思いました。(色分けなど)企画された方々ありがとうございました。
- ・会ったことのない施設の人たちと交流ができて良かったと思う。
- ・同じ障がいの方との交流や、支援者、家族の方の話をきけるいい機会であり、また参加したいと思う。ありがとうございました。
- ・年一回の交流ですが、すごく楽しかったです。
- ・なつかしいリハの職員に出会うだけでなく、卓球バレーを通じて自然と打ち解けられました。来年も参加したいです。
- ・楽しみつつ学ばいい機会になった。

# しずくいしの風

## 高次脳機能障がいメールニュース

第43号 <2018年7月 発行>

いわてリハビリテーションセンター  
高次脳機能障がい者支援普及事業

### 目次

- 1. 高次脳機能障がい者サポートツール（日々ノート）の事例紹介

### 編集後記

梅雨の時期になります。雨がずっと少し気が減入るとい人もいるかもしれませんが、農家にとっては恵みの雨！おいしい野菜が実ることを期待しています。

ご意見ご感想はこちらまで メールニュース担当（吉田、村上、後藤、石鉢）  
メールアドレス  
[koujinou-shien-reha@irc.or.jp](mailto:koujinou-shien-reha@irc.or.jp)

## 1. 日々ノートを利用したケースの紹介

今回は日々ノートを実際にご利用した方の事例を紹介します。添付ファイルで実際に記載したノートの写真を含めて詳しく掲載していますので、ご覧ください。

Aさん 30代 男性  
診断名：脳挫傷、症候性てんかん  
高次脳機能障害の症状：注意障害、記憶障害など

### 目的

自分の状態、症状等について整理・把握  
服薬の必要性についての理解を深める  
目標の設定 など

### 関係機関

いわてリハビリテーションセンター  
A 施設（就労移行支援 B 型事業所）  
B 病院

### 利用した結果

- ①薬の効果や副作用についての理解が深まり、服薬の必要性等を理解できた。現在も服薬継続できている
- ②自分が得意なこと、苦手なことがわかり、対処方法が身に着いた。自信を持って取り組めるようになった
- ③目先のことだけでなく、将来について考えられるようになった
- ④各機関での取り組み状況が分かったことで、どのような支援をしたら良いか考えて関わる事ができた

### 考察

○日々ノートを使うことで本人の変化を時系列で確認することができた。工夫や対策を考えた後も、定期的に振り返ることで効果を確認して次の工夫を考える材料にすることができた。

○途中ノートを紛失し、利用時のデータとの比較ができなかった。高次脳機能障害の症状によっては紛失のリスクが高まることから、今後対策については検討が必要

※事例紹介にあたり、本人及びご家族の承諾はいただいています



# 服薬状況の確認

服薬状況	服薬の状況	服薬の理由	服薬の継続状況	服薬の継続理由
①	1錠/日 × 2回 (3錠)	痛みの軽減	毎日服用	痛みの軽減
②	1錠/日 × 1回	眠りの改善	毎日服用	眠りの改善
③	1錠/日 × 1回	血圧の低下	毎日服用	血圧の低下
④	1錠/日 × 1回	血糖値の低下	毎日服用	血糖値の低下
⑤	1錠/日 × 1回	コレステロール値の低下	毎日服用	コレステロール値の低下
⑥	1錠/日 × 1回	鉄分不足の補填	毎日服用	鉄分不足の補填

- 服用している薬が多く、効果や副作用についての理解が乏しかったため、自己中断することがあった
- 飲んでいる薬をまとめて、表をファイルに挟んだ

# 他機関とのやりとりについて

日付	内容	関係機関	備考
1/6	...	A施設	...
1/10	...	A施設	...
1/15	...	A施設	...
1/20	...	A施設	...

実際の作業場面で思うようにできない事共有

各機関での取り組み状況、今後の方針などを記載した。

※本人と話をしながら記載しています。

# 日常生活状況について

項目	状況	備考
睡眠・起床	起床時間: 7時	起床後朝食を摂る
食事	朝食: 摂る	朝食は毎日摂る
排便	排便回数: 1回	排便は毎日する
入浴	入浴回数: 1回	入浴は毎日する
服薬・服薬	服薬回数: 1回	服薬は毎日する
散歩・散歩	散歩回数: 1回	散歩は毎日する
その他	その他: ...	その他: ...

※実際にやられていること、まだ実施していない事、他者に助けも受けていることなどを整理した。

# 他機関とのやりとりについて

日付	内容	関係機関	備考
1/10	...	A施設	...
1/15	...	A施設	...
1/20	...	A施設	...

本人から聞き取った内容(生活状況や疲労に対する工夫など)を共有した

他機関での状況、また、工夫しみてみて、どうだったかについて共有した

※本人と話をしながら記載しています。

## 得意なこと・苦手なこと・お願いしたいこと

得意なこと・苦手なこと・お願いしたいこと (2018年10月26日)

得意なこと	よくわかる、朝早いこと、掃除、好き
苦手なこと	英語、得意な事がない、得意な事がない
交換したいこと	

介入時は得意な事等、良くわからない状態だったが作業を通して自分の得意なことなどへの気づき

苦手なことに気付いたことで、対策を考えられるようになった

学習・課題について (2018年10月26日)

学習	
課題	

## 目標①

目標 (2018年10月26日)  
 家族や支援者と相談しながら、自分のゴールをイメージして取り組む。

近い将来の目標 (2019年1月)	今のままのペースで、自分のペースで頑張りたい。
そのためにやること	自分のペースで頑張りたい。頑張りたい。頑張りたい。
そのためにやること	頑張りたい。頑張りたい。頑張りたい。

将来の目標 (1年以上先の) 相手のペースで頑張りたい。

そのためにやること

「今やっていること」など曖昧な目標のままにせず、話しながら具体的な目標を立てた

何が得意かは具体的なイメージができなかったため、実際に取組みながら考えていく事にした

将来の目標はまだイメージできなかった。

## 目標②

目標 (2018年10月26日)  
 家族や支援者と相談しながら、自分のゴールをイメージして取り組む。

近い将来の目標 (2019年1月)	今のままのペースで、自分のペースで頑張りたい。
そのためにやること	自分のペースで頑張りたい。頑張りたい。頑張りたい。
そのためにやること	頑張りたい。頑張りたい。頑張りたい。

将来の目標 (1年以上先の) 相手のペースで頑張りたい。

そのためにやること

実際に取り組んでみるようにしたこと。試して効果があった対応方法について話をしながら記載。

他の当事者の経験談を聞いて、仕事をすすめるイメージが湧いてきた。具体的に取組む内容はまだ曖昧だが、新しい事への意欲が

## 目標③

目標 (2018年10月26日)  
 家族や支援者と相談しながら、自分のゴールをイメージして取り組む。

近い将来の目標 (2019年1月)	今のままのペースで、自分のペースで頑張りたい。
そのためにやること	自分のペースで頑張りたい。頑張りたい。頑張りたい。
そのためにやること	頑張りたい。頑張りたい。頑張りたい。

将来の目標 (1年以上先の) 相手のペースで頑張りたい。

そのためにやること

指示されたことではなく、自分で考えて行動する活動への関心が高まった

就労への意欲は継続している。本人が担当者に相談することにし、うまく相談できない時は介入することにした

## まとめ

### 日々ノートを利用して良かった点

- ・薬の効果、副作用についての理解が深まり、必要性を理解したことで服薬継続に繋がった
- ・苦手なことに気づき、対処方法を身に着けることができた
- ・成功体験を通して得意なことかわかり、自信がついた
- ・身近な目標だけでなく、将来について考えられるようになった
- ・日々ノートを通して各関係機関での取り組みを共有したことで、患者さんについて相談する機会が増えた
- ・目標や取り組みを記載することで、当事者だけではなく担当者も忘れずに確認することができた

## まとめ②

### 今後改善、工夫が必要な点

- ・ノートを紛失した  
ノートを紛失したため、使用開始時に記載した内容が無くなってしまった
- ⇒ バックアップの方法、無くさないための工夫について検討が必要

## 日々ノートの利用方法について

「岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業」のサイトからダウンロードできます。

<http://www.irc.or.jp/koujinoukinoushougai/index.html>

### 目次

#### 1. 日々ノートの具体的な使い方について



#### 3. 編集後記

今年の夏は記録的な猛暑で、いつまで続くかひやひやしていましたが、そんな暑い夏も過ぎて、朝夕の風が冷たくなってきました。季節の変わり目は調子を崩しやすい時期です。十分な睡眠をとって、体調管理に心がけていきましょう。

ご意見ご感想はこちらまで  
メールニュース担当  
(吉田、村上、後藤、石鉢)  
アドレス

[koujinou-shien-reha@rc.or.jp](mailto:koujinou-shien-reha@rc.or.jp)

### 1. 日々ノートの具体的な使い方について①

今回は、日々ノートの「基本情報」「受傷・発症時の状況」「受傷発症時の治療経過」の使用例(別途添付ファイル参照)やポイントについてお伝えします。本人や支援者が使いやすいようにするのが一番だと思いますが、一例として参考にして頂ければと思います。

#### 基本情報

氏名：他者のノートと取り違えるリスクもあります。**誰のノートかはっきりわかるようにする**ためにも書くようお願いします。

生年月日：**同性同名の方の判別**に役立ちます。また就労を希望する場合等、年齢が重要な情報の一つになることもあります。

電話番号：緊急連絡先は別にあります。本人の連絡先を書いてください。

その他特記事項：メールアドレスやFAX番号など、電話以外に使用したい連絡先や周囲への要望など自由に書いてください。

ただ、たくさん書きすぎると何が大切かわからなくなるので、**多くの人に知ってもらいたい大切なこと**など、優先順位が高い事に絞って書きましょう。

日々ノートに記載する情報は個人情報も多く含んでおり、本人や家族だけでなく、多数の支援者の目に触れる可能性があります。知られたくないことは書かず、相談しながら必要に応じて加えていきましょう。

#### 「受傷・発症時の状況」「受傷発症時の治療経過」

発症・受傷時の状況やこれまでの治療経過は高次脳機能障害の診断や支援を行う際に大切な情報の一つとなります。また、新たな支援機関に相談する時に、また一から口頭で説明することは大変です。**このページを見せることで正確な情報が伝わりやすくなります。**

**詳しい情報は、本人や家族の同意を頂いてから情報提供を受けること**にして、ここには必要な情報に絞って書いた方がわかりやすいです。

※発症・受傷時のことについて詳しく知ることによって不安が高まったり、落ち着かなくなる方もいます。また、**家族がまだ本人には知らせたくないと考えている場合もある**ので、家族とも相談しながら書いてください。

次回は、各圏域の取り組みをご紹介します予定です



## 受傷・発症時の状況

記入日 30年 7月 6日



診断名	くも膜下出血 発症・受傷日 平成30年 1月 1日
発症・受傷時の状況	平成30年1月1日、起床時に頭痛有。自宅で休んで様子を見ていたが、右腕の麻痺が出現、A病院救急搬送となる。CT画像でくも膜下出血、左脳梗塞の診断を受け、A病院脳神経外科に入院となる。同日クリッピング術を施行。1月20日にリハビリ目的でB病院に転院となる

## 受傷・発症後の治療経過

### ポイント

- ①どこでどんな治療をしてきたか、どのような経過をたどってきたかをまとめます
- ②本人も見ることができるものです。本人に知られたくない情報は書かないように家族と相談しながら書く
- ③詳しい情報は「高次脳機能障害の症状」に書いたり、必要時に別途情報提供する

①医療機関名	A病院 担当医 C先生
治療期間	2018年 1月1日～ 2018年 1月 20日
治療状況等	くも膜下出血、左脳梗塞の診断で脳神経外科に入院。 1月1日にクリッピング術を施行する 入院時、暴言等も見られたが徐々に落ち着く。 1月3日からリハビリ（理学療法）を開始。右上下肢に麻痺があり歩行は介助が必要だった。 1月20日に転院。杖歩行可能。高次脳機能障害の評価は未実施 記入日 2018年 7月 6日
②医療機関名	B病院 担当医 D先生
治療期間	2018年 1月 20日～ 2018年 5月 24日
治療状況等	1月20日に入院。入院時、意識レベルはやや低くJCS1。右上下肢の麻痺や注意障害等の高次脳機能障害が認められた。 事務職への復職、自動車運転評価を目標としてリハビリ開始。 退院時：杖なしで不整地歩行可能。右手の麻痺があり細かい動きが苦手 伝えたことを忘れやすく、同時に複数の作業を行うことが苦手などの高次脳機能障害も残存したため、職場訪問して情報提供を行った。 自動車運転は、B病院の外来で訓練・評価を継続することになった。 記入日 2018年 7月 6日

## 基本情報

記入日 30年 7月 6日



- ポイント**
- ①誰のノートかがわかるように、名前はフルネームで書いておきましょう
  - ②他者に知ってほしい、または伝えたいことなどを書いておく
  - ③様々な手続きの際に、必要な情報を書いておくと確認できる

**\*知られたくないことは書かないように!!**

(ふりがな) 氏名	岩手 太郎	性別	<input checked="" type="radio"/> 男 <input type="radio"/> 女
生年月日	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 57年 6月 30日 ( 36歳)		
住所	〒 020-0000 岩手県盛岡市〇〇-1-1-1 アパート岩手 101		
電話番号	自宅 : 019-000-0000 携帯 : 090-0000-0000		
その他 特記事項	<p><u>重要なことはメールに連絡をください</u></p> メールアドレス : iwatetaroukoujinou@〇〇.jp 字を書く事が苦手です。手続きの時は代わりに書いてもらえると助かります		

**緊急連絡先は別のページにあるので、家族などの支援者ではなく、本人の連絡先を書く**

**メールアドレスや FAX など、電話以外で使いたい連絡先を書いたり、他者への要望を記載する。  
 たくさん書きすぎると見づらくなり、結果的に伝わりにくくなるため、たくさんの人に知ってもらいたい大切な情報に絞りましょう。**

### 目次

- 1. 宮古圏域の取り組みについて
- 2. 研修会情報
- 3. 編集後記



宮古圏域とは宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村を指します。

現在、障がい保健福祉圏域ごと(地図の色分けの通り)に地域支援拠点機関の設置を進めています。

## 1. 宮古圏域の取り組みについて

今回は宮古圏域での取り組みについて、レインボーネットの五十嵐さんにご紹介頂きます。

NPO法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット(通称:レインボーネット)では、平成27年度に高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業、平成28年度に支援普及事業を岩手県から受託し、平成29年度からは、自主事業として活動を進めてまいりました。宮古圏域では、連絡会、家族教室、研修会等の開催をしています。

連絡会は年に2回開催し、行政、医療、就労、福祉サービス事業所、社協、相談支援事業所、家族会等との情報交換や事例紹介、地域での支援状況の報告等行っています。事業を始めて4年目になりますが、連絡会を通じて関わった各機関とのつながりから、学習会や家族教室の講師を務めていただいたり、退院後の支援について一緒に考えるケースも増えてきました。

家族教室は年に3回開催しています。いわて脳外傷友の会イーハトーヴ沿岸地区と共催で、これまでに音楽療法やおやつ作り&座談会、家庭で出来るリハビリ(脳トレ)、ハーブ石鹸づくり、卓球バレー交流などの内容で行ってきました。今年度第1回目は宮古圏域の社会資源についてご紹介し、地域との関わりについて学ぶ機会を持ちましたが、参加された方からは、『いろいろサービスはあるけど、受傷前の生活に比べると、今満足できている状況ではない・・・』と語られたことが印象に残っています。個々の生活がいくらかでも前に進むことを願って、今後も支援に関わっていきたいと思います。



## 2. 研修会情報

### いわて脳損傷リハビリテーション講習会

#### 宮古地区

日時：平成30年11月17日（土）  
15：00～17：00（受付 14：30～）

場所：宮古地区合同庁舎 大会議室

#### 久慈地区

日時：平成30年11月18日（日）  
13：00～15：00（受付 12：30～）

場所：久慈地区合同庁舎 大会議室

#### <プログラム>

講演1 認知症や発達障害にも役に立つ。  
地域で出来る“慢性期の高次脳機能障害のための  
リハビリテーションと支援”養成講座

講師：梗間メンタルリハビリテーション研究所  
所長 梗間 剛 氏

講演2 実践報告  
地域で支える高次脳機能障害支援の取り組み

講師：宮古・久慈圏域  
高次脳機能障がい者地域支援拠点機関担当者

※詳細は添付のチラシでご確認ください。

## 3. 編集後記

秋が深まり、日が落ちるのが早くなってきましたね。紅葉も始まり景色が変わっていくのが楽しみです。

今回は初めて地域支援拠点機関の活動についてご紹介させていただきました。現在岩手県内には8つの拠点機関が設置され、今年度中にさらに増える予定です。今後も順番にご紹介させていただきたいと思います。



ご意見ご感想はこちらまで メールニュース担当（吉田、村上、後藤、石鉢）  
アドレス [koujinou-shien-reha@irc.or.jp](mailto:koujinou-shien-reha@irc.or.jp)

### 目次

1. いわてリハビリテーションセンターにおける、自動車運転再開に向けた検査について
2. 研修会情報
3. 編集後記



日本でも馴染みのある「雪だるま」は、海外では、「雪人」「雪男」「雪人形」などと呼ばれているようです。

## 1. いわてリハビリテーションセンターにおける、自動車運転再開に向けた検査について

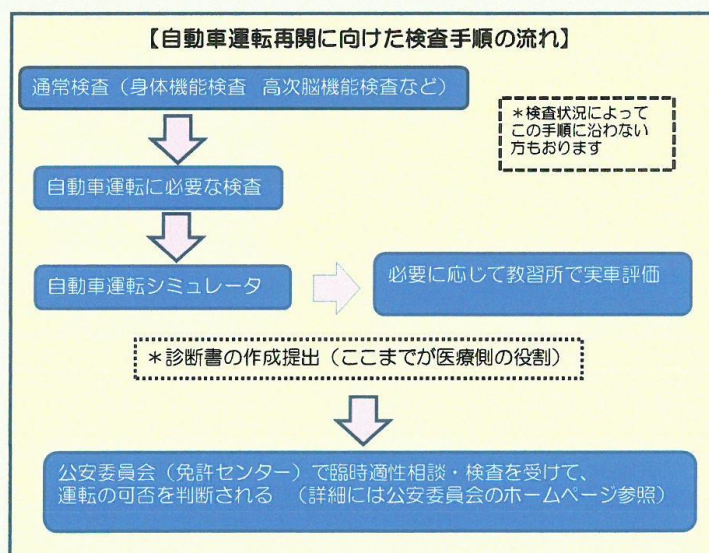
今回は当センターで実施している「自動車運転再開」に向けた検査手順について、作業療法科大久保副科長より紹介して頂きます。

いわてリハビリテーションセンターでは、身体機能や高次脳機能に障がいのある方に対して、生活の拡大や社会参加を目的に自動車運転再開に向けた検査を行っております。

自動車の運転が出来ることで、仕事や買い物などの活動範囲が広がり、自動車は私たちの生活にかかせない便利な乗り物となっています。その運転には人間の脳機能がさまざま関与し、認知・予測・判断・操作などが求められます。その一部が病気や怪我で制限されると運転に支障をきたします。時にその便利な乗り物が、事故によりご自身の安全や他の方への影響を与えることにもなりかねません。

そのため図1のような流れで、医学的視点から診断書を提出し、最終的な判断は公安委員会（免許センター）で行われることを御理解して頂いた上で検査を行っています。

図1 いわてリハビリテーションセンターにおける運転再開に向けた検査手順



## 2. 研修会情報

高次脳機能障がい者支援研修会(医師及びコメディカル対象)

### 「高次脳機能障害者の 自動車運転再開の判断と支援」

#### ◇講師◇

慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室教授

慶應義塾大学病院 副院長 三村 将先生

◇日時：平成31年2月7日(木) 18:30~20:30

◇場所：ホテルニューカリーナ アイリス

◇対象：県内に脳神経外科、神経内科、神経精神科、精神科、  
リハビリテーション科、救急科等の医師及びコメディカル

◇参加費：無料

◇申込方法

申込書に記入の上FAXで申し込んで下さい。

(申込期限平成31年1月31日迄)

※詳細は添付のチラシでご確認ください。

○主催 いわてリハビリテーションセンター

○共催 岩手高次脳機能障害研究会(予定)

○後援 岩手県医師会(予定)

## 3. 編集後記

ついに、冬が到来しましたね。風邪やインフルエンザが流行る時期でもありますので、体調管理に気を付けたいものです。

風邪対策として「バランスのよい食事」「手洗いうがい」「十分な睡眠」などがあるようです。私もこれらのことを意識して今年の冬を乗り切りたいと思います！

ご意見ご感想はこちらまで メールニュース担当(吉田、村上、後藤、石鉢)

アドレス [koujinou-shien-reha@irc.or.jp](mailto:koujinou-shien-reha@irc.or.jp)

# しずくいしの風

## 高次脳機能障がいメールニュース

第47号 <2019年3月発行>

いわてリハビリテーションセンター  
高次脳機能障がい者支援普及事業

目次

1. 気仙圏域の取り組みについて
2. 研修会報告
3. 編集後記



気仙圏域には大船渡市、陸前高田市、住田町が含まれます。

気仙圏域の地域支援拠点機関は今回記事を作成いただいた「地域活動支援センター星雲 相談室」です。

住所：大船渡市盛町字東町 11-12  
TEL：0192-21-1305

### 1. 気仙圏域の取り組みについて

今回は、気仙圏域の地域支援拠点機関である地域活動支援センター星雲 相談室さんに高次脳機能障がい者支援の取り組みについて、ご紹介いただきます。

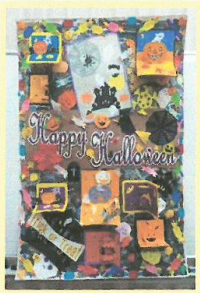
地域活動支援センター星雲相談室では、平成27年度から高次脳機能障がい者支援普及事業、地域の相談支援体制の整備の一環として、地域支援拠点の役割を担っています。平成29年度からは自主事業として継続的な取り組みを行っており、今回はその活動の中から“家族教室”についてご紹介します。

家族教室は年に3回開催し、座談会や作品作りをしながらご家族や当事者の皆さんとゆったりした“ひととき”を過ごしてきました。昨年の振り返りにおいて「日頃の運動不足を解消したい」との声を受け、今年度はニュースポーツを取り入れて楽しみました。家族教室一番のトピックは、家族会のメンバーで“じゃじゃじゃ交流会2018”に参加してきたことです。県内の当事者・ご家族との交流の機会はとても貴重で、たくさんのお土産（お菓子・お話・思い出など）もいただきました。家族教室で聴かれたたくさん声や思いを参考に、これからも皆様に寄り添いながら続けていけたらと思います！！

～家族の声～

・(これまでのことを考えると…)「かわいそう」「大変だね」とか同情されるだけで同じ気持ちではなかった。何もなくて良いから…話を聞いてもらえるだけで良いから…。同じような人と話せるとほっとしたり、安心する。

・〇〇が受傷してからは外出できなかった。数年ぶりに盛岡に出掛けられて嬉しかった。行けるだけで楽しかった。自分だけ大変だと思ってたけど、交流会に出ると「私だけじゃないなあ、頑張らないと」と支えられる。そういうのは誰も教えてくれないから助かる。「大変だねえ、かわいそうだねえ」じゃなくて「こうしたら良いよ」というアドバイスが良かった。 などなど



～お知らせ～

気仙圏域には、気仙失語症友の会『はまりやすペヤ』という当事者団体があり、月1回の定例会（食事会など）を和やかに開催しています。家族教室と合わせ、ご興味のある方は一度お気軽にお問合せ下さい。

## 2. 研修会報告

### 「行動に障害のある方を 理解・支援していくための研修会」

平成31年3月9日（土）に岩手県自治会館（盛岡市）にて研修会を開催致しました。当日は福祉施設、相談支援事業所、医療機関職員ら50名が参加しました。

講師には国立障害者リハビリテーションセンター 高次脳機能障害情報・支援センター長の深津玲子先生と、同センター 精神障害者社会復帰指導専門職の和田愛祐美先生をお迎えし、行動障害の概要と支援のあり方、行動障害のある方の社会復帰支援について、それぞれ講演頂きました。



午後はグループワークを行い、行動障害のある方が地域生活を送るための支援について、多職種で話し合いました。

参加者の方からは「高次脳機能障害と発達障害の違い、アプローチ方法についてよく理解できた」、「行動障害に関し、分類や法律、具体的な支援例や問い合わせ先等幅広く知ることができ、非常に有意義な時間だった」「事例を交えてアセスメントと支援体制について聞くことができ、大変参考になった」とご好評を頂きました。ありがとうございます。

アンケートでは研修会についていくつかご要望を頂きましたので、それを参考に来年度も高次脳機能障害の研修会を企画してまいります。皆様のご参加をお待ちしております。



## 3. 編集後記

地域支援拠点機関の紹介は今回で2回目になります。各圏域で特色のある取り組みをされているので、ぜひご覧ください。

早くも3月。平成の時代も残りわずかになりました。新しい年号に変わっても、変わらずに更新を続けていけるよう頑張ります！

ご意見ご感想はこちらまで メールニュース担当（吉田、村上、後藤、石鉢）

アドレス [koujinou-shien-reha@irc.or.jp](mailto:koujinou-shien-reha@irc.or.jp)



高次脳機能障害

# 「見えない障害」支えるノート

## 状況記入 家族・職場で情報共有

周囲に気づかれにくく、「見えない障害」と言われる高次脳機能障害の人や家族など支援者のためのサポートブック「日々ノート」が完成した。制作したいわてリハビリテーションセンター（栗石町）の職員らは「病院だけでなく、家族や職場などこの情報共有に生かしてほしい」と話す。

### 栗石のリハビリセンター制作



いわて高次脳機能障害友の会イーハトリーブの堀間幸子さん（右）と「日々ノート」利用者の男性（盛岡市）



「日々ノート」を制作したいわてリハビリテーションセンターの職員たち（栗石町）

高次脳機能障害は交通事故や病気などで脳が傷つき、言語や記憶力、注意力などの能力に障害が出る障害。外からは見えない障害のため周囲が気づかず、本

人も症状を正確に理解・説明できないことが多い。そんな当事者が社会で適応するのを支援するため、県から事業委託された同センターの職員や臨床心理士、医師らがノートをつくった。障害の概要や判断基準に加えて、食事や金銭の管理などどのような日常生活を送っているのかチェックする項目があり、ノートを見れば当事者の現在の状況が分かるようになっている。A5サイズ22頁。昨年11月に県内の病院や自治体、支援施設など470カ所に約900部を配布した。同センターのウェブサイト（<http://www.jrc.or.jp/koujinoukinoushougai/hibinote/index.html>）から無料ダウンロードできる。

同センターの社会福祉士、上田大介さんは「誤解を生みやすい障害だが、本人を支える関係各所の連携と理解、協力が必要で、ノートがその一助になれば」と話す。ノートづくりに携わった同センターの脳神経外科医師の阿部深雪さんには苦い経験がある。担当していた50代の会社員男性から、受診する度に「仕事は順調」と説明を受けていた。しかし実際には、書類の締め切りが間に合わなかったり、感情が抑えられなかったりするなど、職場でトラブルが続いていた。「病院と職場が事前に情報共有する仕組みが必要と痛感した」と阿部さん。北海道などでの先行事例を参考にノートを仕上げた。

2014年現在、県内では約2800人の当事者がいると推計されている。30〜50代の男性が多い。障害に気づかないまま暮らしている人も少なくないという。01年ごろから徐々に全国で支援の仕組みが整備され始めている。当事者や家族の支援をするNPO法人「いわて高次脳機能障害友の会イーハトリーブ」（盛岡市）では、数人の利用者がノートを活用している。高次脳機能障害がある長男を持つ堀間幸子代表は「当事者本人の目を気にして書くべきことを書けない可能性もある」と指摘しつつも、「本人が将来の目標を書く項目もあり、自分の状態を認識するのに役立つ」と評価している。（渡辺朔）

### Ⅲ 岩手県内の支援拠点機関

#### 1. 岩手県支援拠点機関

名称	所在地	電話番号
いわてリハビリテーションセンター	雫石町七ツ森 16-243	019-692-5800

#### 2. 地域支援拠点機関（平成 30 年度）

圏域	名称	所在地	電話番号
宮古	相談支援事業所れいんぼー	宮古市緑ヶ丘 2-3	0193-64-7878
気仙	地域活動支援センター星雲 相談室	大船渡市盛町字東町 11-12	0192-21-1305
二戸	地域生活支援センター・カシオペア	二戸市石切所字川原 46-1	0195-23-6608
久慈	地域生活支援センター久慈	久慈市門前第 1 地割 151-1	0194-52-8177
釜石 ・大槌	地域活動支援センター釜石	釜石市定内町一丁目 8-10	0193-21-1156
胆江	指定相談支援事業所 サポートにじ	金ヶ崎町六原町の内表道下 31-2	0197-43-2787
盛岡	いわて高次脳機能障害友の会 イーハトーヴ	盛岡市中野一丁目 1-26	019-652-1137
岩手 中部	いわて高次脳機能障害友の会 イーハトーヴ県南支部	盛岡本部にご連絡ください	
両磐	居住地の役場障がい福祉担当課、または担当の相談支援専門員等にご相談ください。		

※胆江圏域は年度持ち回り制のため、年度ごとに支援拠点機関が変更となります。